

令和3年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名		大阪府		市町村類型	政令指定都市	指定団体等の指定状況		区分	令和3年度(千円)	令和2年度(千円)	区分	令和3年度(千円・%)	令和2年度(千円・%)
						財政健全化等	×		歳入総額	2,003,680,509	2,042,685,098	実質収支比率	3.4
市町村名	大阪市	地方交付税種地	1-10	財源超過	×	歳出総額	1,962,155,183	2,014,653,275	経常収支比率	85.1	94.3		
				首都	×	歳入歳出差引	41,525,326	28,031,823	(※1)	(91.4)	(98.7)		
				近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	10,728,862	14,990,794	標準財政規模	899,578,624	864,930,635		
					×	実質収支	30,796,464	13,041,029	財政力指数	0.92	0.94		
人口	令和2年国調(人)	2,752,412 <th colspan="3" rowspan="3">産業構造 (※5)</th> <th>単年度収支</th> <td>17,755,435</td> <td>10,368,934</td> <th>公債費負担比率</th> <td>16.1</td> <td>16.6</td>	産業構造 (※5)			単年度収支	17,755,435	10,368,934	公債費負担比率	16.1	16.6		
	平成27年国調(人)	2,691,185 <th>積立金</th> <td>46,706,101</td> <td>4,779,071</td> <th>健全化判断比率</th> <td></td> <td></td>				積立金	46,706,101	4,779,071	健全化判断比率				
	増減率 (％)	2.3 <th>繰上償還金</th> <td>0</td> <td>0</td> <th>実質赤字比率</th> <td>-</td> <td>-</td>				繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-		
住民基本台帳人口 (※7)	令04.01.01(人)	2,732,197 <th rowspan="2">区分</th> <th>令和2年国調</th> <th>平成27年国調</th> <th>低開発</th> <th>×</th> <th>積立金取崩し額</th> <td>357,640</td> <td>2,564</td> <th>連結実質赤字比率</th> <td>-</td> <td>-</td>	区分	令和2年国調	平成27年国調	低開発	×	積立金取崩し額	357,640	2,564	連結実質赤字比率	-	-
	うち日本人(人)	2,593,449 <th>第1次</th> <td>1,144</td> <td>1,122<th>指数表選定</th><th>○</th><th>実質単年度収支</th><td>64,103,896</td><td>15,145,441</td><th>実質公債費比率</th><td>1.8</td><td>2.7</td></td>		第1次	1,144	1,122 <th>指数表選定</th> <th>○</th> <th>実質単年度収支</th> <td>64,103,896</td> <td>15,145,441</td> <th>実質公債費比率</th> <td>1.8</td> <td>2.7</td>	指数表選定	○	実質単年度収支	64,103,896	15,145,441	実質公債費比率	1.8
	令03.01.01(人)	2,739,963 <th rowspan="2">第2次</th> <td>0.1</td> <td>0.1<th></th><th></th><th></th><td></td><td></td><th>将来負担比率</th><td>-</td><td>5.3</td></td>	第2次	0.1	0.1 <th></th> <th></th> <th></th> <td></td> <td></td> <th>将来負担比率</th> <td>-</td> <td>5.3</td>						将来負担比率	-	5.3
	うち日本人(人)	2,595,840 <th>第3次</th> <td>211,891</td> <td>220,980<th></th><th></th><th></th><td></td><td></td><th rowspan="4">資金不足比率 (※4)</th><th rowspan="4"></th><th rowspan="4"></th></td>		第3次	211,891	220,980 <th></th> <th></th> <th></th> <td></td> <td></td> <th rowspan="4">資金不足比率 (※4)</th> <th rowspan="4"></th> <th rowspan="4"></th>						資金不足比率 (※4)	
	増減率 (％)	-0.3 <th></th> <td>20.7</td> <td>22.7<th></th><th></th><th></th><td></td><td></td></td>		20.7	22.7 <th></th> <th></th> <th></th> <td></td> <td></td>								
	うち日本人(%)	-0.1 <th></th> <td>808,471</td> <td>752,032<th></th><th></th><th></th><td></td><td></td></td>		808,471	752,032 <th></th> <th></th> <th></th> <td></td> <td></td>								
面積 (km ²)	225.33 <th></th> <td>79.1</td> <td>77.2<th></th><th></th><th></th><td></td><td></td></td>			79.1	77.2 <th></th> <th></th> <th></th> <td></td> <td></td>								
人口密度 (人/km ²)	12,215 <th colspan="3"></th> <th></th> <th></th> <th></th> <td></td> <td></td>												
世帯数 (世帯)	1,469,718 <th colspan="3"></th> <th></th> <th></th> <th></th> <td></td> <td></td>												
職員の状況													
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	1,702,596,158	1,734,634,236		
	市区町村長	1	10,014 <th>一般職員</th> <td>20,662</td> <td>62,192,620</td> <td>3,010<th>うち公的資金</th><td>232,501,614</td><td>240,913,723</td><th colspan="2"></th></td>		一般職員	20,662	62,192,620	3,010 <th>うち公的資金</th> <td>232,501,614</td> <td>240,913,723</td> <th colspan="2"></th>	うち公的資金	232,501,614	240,913,723		
	副市区町村長	3	9,426 <th>うち消防職員</th> <td>3,543</td> <td>10,334,931</td> <td>2,917<th>地方債現在高(臨時財政対策債除き)</th><td>945,248,993</td><td>966,603,764</td><th colspan="2"></th></td>		うち消防職員	3,543	10,334,931	2,917 <th>地方債現在高(臨時財政対策債除き)</th> <td>945,248,993</td> <td>966,603,764</td> <th colspan="2"></th>	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	945,248,993	966,603,764		
	教育長	1	8,163 <th>うち技能労務職員</th> <td>4,233</td> <td>11,915,895</td> <td>2,815<th>債務負担行為額(支出予定額)</th><td>296,523,818</td><td>268,314,879</td><th colspan="2"></th></td>		うち技能労務職員	4,233	11,915,895	2,815 <th>債務負担行為額(支出予定額)</th> <td>296,523,818</td> <td>268,314,879</td> <th colspan="2"></th>	債務負担行為額(支出予定額)	296,523,818	268,314,879		
	議会議長	1	9,500 <th>教育公務員</th> <td>12,485</td> <td>41,320,322</td> <td>3,310<th>収益事業収入</th><td>9,441,631</td><td>8,536,235</td><th colspan="2"></th></td>		教育公務員	12,485	41,320,322	3,310 <th>収益事業収入</th> <td>9,441,631</td> <td>8,536,235</td> <th colspan="2"></th>	収益事業収入	9,441,631	8,536,235		
	議会副議長	1	8,440 <th>臨時職員</th> <td>776</td> <td>1,998,200</td> <td>2,575<th>土地開発基金現在高</th><td>20,642,806</td><td>20,642,806</td><th colspan="2"></th></td>		臨時職員	776	1,998,200	2,575 <th>土地開発基金現在高</th> <td>20,642,806</td> <td>20,642,806</td> <th colspan="2"></th>	土地開発基金現在高	20,642,806	20,642,806		
	議会議員	81	7,740 <th>合計</th> <td>33,923</td> <td>105,511,142</td> <td>3,110<th>積立金現在高</th><td>212,730,563</td><td>166,382,102</td><th colspan="2"></th></td>		合計	33,923	105,511,142	3,110 <th>積立金現在高</th> <td>212,730,563</td> <td>166,382,102</td> <th colspan="2"></th>	積立金現在高	212,730,563	166,382,102		
									減債基金	-	-		
								其他特定目的基金	64,327,741	64,904,726			
一般会計等の一覧		事業会計の一覧		公営企業(法適)の一覧		公営企業(法非適)の一覧		関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧			
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)	
(1)	一般会計	(5)	駐車場事業会計	(9)	水道事業会計	(14)	食肉市場事業会計	(15)	関西広域連合	(22)	大阪市高速電気軌道(株)		
(2)	母子父子寡婦福祉貸付資金会計	(6)	国民健康保険事業会計	(10)	工業用水道事業会計			(16)	大阪府後期高齢者医療広域連合(一般会計)	(23)	(株)大阪メトロサービス		
(3)	心身障害者扶養共済事業会計	(7)	介護保険事業会計	(11)	中央卸売市場事業会計			(17)	大阪府後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	(24)	大阪地下街(株)		
(4)	公債費会計	(8)	後期高齢者医療事業会計	(12)	下水道事業会計			(18)	淀川左岸水防事務組合	(25)	(株)大阪メトロアドエラ		
				(13)	港営事業会計			(19)	淀川右岸水防事務組合	(26)	TUCKNAL(株)		
								(20)	大和川右岸水防事務組合	(27)	大阪シティバス(株)		
								(21)	大阪広域環境施設組合	(28)	(公大)大阪		
										(29)	(地独)大阪市博物館機構		
										(30)	(地独)大阪産業技術研究所		
										(31)	(株)大阪城ホール		

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
※6：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
※7：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※8：職員の状況については、令和3年地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）						
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分			
地方税	750,030,203	37.4	689,067,164	75.9	普通税	660,188,767	88.0	21,695,733			
地方譲与税	5,977,023	0.3	5,977,023	0.7	法定普通税	660,188,767	88.0	21,695,733			
利子割交付金	452,651	0.0	452,651	0.0	市町村民税	327,673,294	43.7	21,695,733			
配当割交付金	3,592,122	0.2	3,592,122	0.4	個人均等割	4,659,619	0.6	-			
株式等譲渡所得割交付金	4,050,020	0.2	4,050,020	0.4	所得割	214,738,509	28.6	-			
分離課税所得割交付金	457,838	0.0	457,838	0.1	法人均等割	19,676,200	2.6	-			
地方消費税交付金	72,542,405	3.6	72,542,405	8.0	法人税割	88,598,966	11.8	21,695,733			
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	固定資産税	302,707,473	40.4	-			
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	302,447,914	40.3	-			
自動車取得税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	2,049,949	0.3	-			
軽油引取税交付金	11,261,362	0.6	11,261,362	1.2	市町村たばこ税	27,758,051	3.7	-			
自動車税環境性能割交付金	1,504,835	0.1	1,504,835	0.2	鉱産税	-	-	-			
法人事業税交付金	17,772,772	0.9	17,772,772	2.0	特別土地保有税	-	-	-			
地方特例交付金等	13,476,007	0.7	11,949,620	1.3	法定外普通税	-	-	-			
個人住民税減収補填特例交付金	2,667,868	0.1	2,667,868	0.3	目的税	89,841,436	12.0	-			
自動車税減収補填特例交付金	444,389	0.0	444,389	0.0	法定目的税	89,841,436	12.0	-			
軽自動車税減収補填特例交付金	36,628	0.0	36,628	0.0	入湯税	129,150	0.0	-			
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金	10,327,122	0.5	8,800,735	1.0	事業所税	28,749,247	3.8	-			
地方交付税	72,484,739	3.6	71,185,317	7.8	都市計画税	60,963,039	8.1	-			
普通交付税	71,185,317	3.6	71,185,317	7.8	水利地益税等	-	-	-			
特別交付税	1,299,298	0.1	-	-	法定外目的税	-	-	-			
震災復興特別交付税	124	0.0	-	-	旧法による税	-	-	-			
（一般財源計）	953,601,977	47.6	889,813,129	98.0	合計	750,030,203	100.0	21,695,733			
交通安全対策特別交付金	801,068	0.0	801,068	0.1							
分担金・負担金	4,543,648	0.2	-	-	区分		令和3年度	令和2年度			
使用料	60,521,807	3.0	13,284,309	1.5	徴収率 (%)	現・計 年	合計	99.5	98.6	98.1	97.3
手数料	7,464,949	0.4	-	-			市町村民税	99.1	97.5	98.3	96.8
国庫支出金	597,577,347	29.8	-	-			純固定資産税	99.8	99.5	97.8	97.5
国有提供交付金（特別区財調交付金）	-	-	-	-							
都道府県支出金	101,349,008	5.1	-	-	公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況				
財産収入	23,548,530	1.2	4,120,360	0.5	合計	162,864,334	実質収支	2,388,090			
寄附金	781,789	0.0	-	-	下水道	24,221,973	再差引収支	-4,066,354			
繰入金	4,702,018	0.2	-	-	宅地造成	10,914,924	加入世帯数（世帯）	411,731			
繰越金	28,031,823	1.4	-	-	交通	4,002,334	被保険者数（人）	590,497			
諸収入	64,713,045	3.2	356,901	0.0	市場	3,058,915	被保険者 1人当り	保険税（料）収入額	86		
地方債	156,043,500	7.8	-	-	国民健康保険	33,961,091		国庫支出金	3		
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-	その他	86,705,097		保険給付費	333		
うち猶予特例債	-	-	-	-							
うち臨時財政対策債	67,246,000	3.4	-	-							
歳入合計	2,003,680,509	100.0	908,375,767	100.0							

（注釈）
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況（単位 千円・％）						
目的別歳出の状況（単位 千円・％）						
区分	決算額（A）	構成比	（A）のうち普通建設事業費	（A）のうち充当一般財源等		
議会費	2,207,606	0.1	-	2,206,936		
総務費	126,509,768	6.4	6,273,428	109,111,635		
民生費	855,084,247	43.6	7,392,606	314,476,521		
衛生費	157,702,271	8.0	4,123,109	91,640,519		
労働費	201,774	0.0	-	169,617		
農林水産業費	97,059	0.0	-	19,438		
商工費	55,739,939	2.8	741,758	32,487,658		
土木費	225,830,559	11.5	139,982,051	78,756,795		
消防費	41,017,997	2.1	5,851,674	36,093,976		
教育費	288,518,277	14.7	48,972,846	220,052,331		
災害復旧費	52,410	0.0	-	410		
公債費	205,190,942	10.5	-	179,693,788		
諸支出金	4,002,334	0.2	-	4,002,334		
前年度繰上充用金	-	-	-	-		
歳出合計	1,962,155,183	100.0	213,337,472	1,068,711,958		
性質別歳出の状況（単位 千円・％）						
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率	
義務的経費計	1,187,133,558	60.5	600,193,888	573,026,681	58.7	
人件費	307,224,797	15.7	252,539,241	251,026,663	25.7	
うち職員給	222,301,947	11.3	182,738,273	-	-	
扶助費	675,282,683	34.4	168,525,723	168,251,108	17.2	
公債費	204,626,078	10.4	179,128,924	153,748,910	15.8	
元利償還金	204,625,629	10.4	179,128,475	153,748,461	15.8	
内 訳	うち元金	188,081,578	9.6	162,611,323	137,231,309	14.1
	うち利子	16,544,051	0.8	16,517,152	16,517,152	1.7
	一時借入金利子	449	0.0	449	449	0.0
その他の経費	561,631,743	28.6	412,338,973	257,379,039	26.4	
物件費	161,107,397	8.2	98,261,258	87,692,321	9.0	
維持補修費	20,032,088	1.0	13,315,763	13,315,763	1.4	
補助費等	191,659,491	9.8	151,333,281	72,287,588	7.4	
うち一部事務組合負担金	9,202,769	0.5	4,600,790	1,608,475	0.2	
繰出金	132,817,203	6.8	104,156,625	84,083,367	8.6	
積立金	48,016,005	2.4	44,249,679	-	-	
投資・出資金・貸付金	7,999,559	0.4	1,022,367	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-	
投資的経費計	213,389,882	10.9	56,179,097	-	-	
うち人件費	3,944,148	0.2	3,890,597	-	-	
普通建設事業費	213,337,472	10.9	56,178,687	-	-	
内 訳	うち補助	115,894,095	5.9	4,528,183	-	-
	うち単独	92,886,795	4.7	51,370,922	-	-
	災害復旧事業費	52,410	0.0	410	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-	
歳出合計	1,962,155,183	100.0	1,068,711,958	-	-	

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等 からの 繰入金	地方債 現在高	備考
1 一般会計	2,009,154	1,968,220	40,934	30,796	6,625	2,358,752	
2 母子父子寡婦福祉貸付資金会計	409	138	272	-	5	1,988	
3 心身障害者扶養共済事業会計	525	525	-	-	96	-	
4 公債費会計	694,654	694,654	-	-	415,506	-	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
計 一般会計等(純計)	2,704,743	2,663,537	41,206	30,796		2,360,740	実質赤字額

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 繰入見込額	資金不足 比率	備考
1 駐車場事業会計	2,757	2,679	79	-	-	230	-		
2 国民健康保険事業会計	296,890	294,502	2,388	2,388	33,961	-	-		
3 介護保険事業会計	297,149	295,929	1,221	1,221	47,882	-	-		
4 後期高齢者医療事業会計	35,536	33,899	1,637	1,637	8,628	-	-		
5 水道事業会計	58,363	49,958	8,405	29,997	226	102,465	205	-	法適用企業
6 工業用水道事業会計	1,674	1,455	218	6,302	4	233	0	-	法適用企業
7 中央卸売市場事業会計	6,931	6,920	11	9,017	1,593	50,114	8,620	-	法適用企業
8 下水道事業会計	75,955	73,299	2,656	39,609	24,222	445,518	269,538	-	法適用企業
9 港営事業会計	43,424	22,622	20,802	-	1	125,151	-	-	法適用企業
10 食肉市場事業会計	4,560	4,560	-	-	1,466	2,694	2,128	-	法非適用企業
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
計 公営企業会計等				90,171		726,405	280,491		連結実質赤字額

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純増益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 負担見込額	備考
1 関西広域連合	2,566	2,493	73	73	31	66	-	
2 大阪府後期高齢者医療広域連合(一般会計)	219	195	24	24	-	-	-	
3 大阪府後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	1,282,575	1,237,829	44,746	44,746	8,500	-	-	
4 淀川左岸水防事務組合	162	159	3	3	-	-	-	
5 淀川右岸水防事務組合	131	126	5	5	-	-	-	
6 大和川右岸水防事務組合	98	94	3	3	-	-	-	
7 大阪広域環境施設組合	19,240	19,240	-	-	10,729	16,546	7,959	
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
計 一部事務組合等				44,854		16,612	7,959	

公債費負担の状況

実質公債費比率 (千円・%)					
区分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	分母比
元利償還金		87,889,678	85,235,502	85,462,826	10.7
減債基金積立不足算定額		-	-	-	-
準元利償還金	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	85,856,164	78,417,697	73,889,994	9.2
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	20,838,693	20,210,910	19,393,580	2.4
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	844,203	643,973	600,357	0.1
	債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	10,345,397	11,126,473	11,259,294	1.4
	一時借入金の利息	-	-	-	-
合計 (A)		205,574,135	195,634,555	190,606,051	
内訳		令和元年度	令和2年度	令和3年度	分母比
債務負担行為	PFI事業に係るもの	-	-	-	-
	いわゆる五省協定等に係るもの	363,760	1,756,501	2,190,907	0.3
	国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	144,837	-	-	-
	地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
	社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
	損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
	引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
	その他上記に準ずるもの	9,836,800	9,369,972	9,068,387	1.1
	利子補給に係るもの	-	-	-	-
特定財源の額	(B)	84,249,353	80,872,856	80,176,771	
標準財政規模	(C)	851,840,443	864,930,635	899,578,624	
算入公債費等の額	(D)	104,504,968	101,010,301	99,571,902	
	(C)―(D)	747,335,475	763,920,334	800,006,722	
実質公債費比率	(単年度)	2.3	1.8	1.4	
((A)―(B)+(D))) / ((C)―(D)) × 100	(3ヵ年平均)	3.2	2.7	1.8	

将来負担の状況

将来負担比率（千円・％）											
区分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	分母比	内訳	令和元年度	令和2年度	令和3年度	分母比	
将来負担額	一般会計等に係る地方債の現在高	2,625,777,285	2,454,822,694	2,360,740,382	295.1	PF事業に係るもの	-	-	-	-	
	債務負担行為に基づく支出予定額	88,276,774	77,407,749	66,267,709	8.3	いわゆる五省協定等に係るもの	13,188.343	11,432.200	9,241.293	1.2	
	公営企業債等繰入見込額	289,885,239	282,245,377	280,491,430	35.1	国営土地改良事業に係るもの	-	-	-	-	
	組合等負担等見込額	8,091,220	8,514,819	7,958,677	1.0	森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-	
	退職手当負担見込額	234,245,118	229,242,445	216,729,846	27.1	地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-	
	設立法人等の負債額等負担見込額	27,322,817	25,577,600	23,831,768	3.0	依頼土地の買い戻しに係るもの	-	-	-	-	
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額	-	-	-	-	社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-	
	連結実質赤字額	-	-	-	-	損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-	
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-	
	合計	(E)	3,273,598,453	3,077,810,684	2,956,019,812	-	その他上記に準ずるもの	75,088.431	65,975.549	57,026.416	7.1
充当可能財源等	充当可能基金	966,190,956	897,658,250	908,767,115	113.6	下水道事業会計	279,376.850	272,536.191	269,538.198	33.7	
	充当可能特定歳入	761,512,823	786,137,169	819,578,090	102.4	中央卸売市場事業会計	10,521.403	9,092.388	8,619.534	1.1	
	基準財政需要額算入見込額	1,370,027,166	1,353,105,031	1,365,738,088	170.7	食肉市場事業会計	313.907	506.096	2,128.302	0.3	
	合計	(F)	3,097,730,945	3,036,900,450	3,094,083,293	-	水道事業会計	117,057	109,692	204,930	0.0
	将来負担比率（(E)－(F)）／((C)－(D))×100		23.5	5.3	-	その他の会計	890	1,010	466	0.0	
						公社・三セク等	地方道路公社に係る将来負担額	-	-	-	-
							土地開発公社に係る将来負担額	-	-	-	-
							地方独立行政法人に係る将来負担額	-	-	-	-
							その他第三セクター等に係る将来負担額	27,322.817	25,577.600	23,831,768	3.0
健全化判断比率		令和3年度	早期健全化基準	財政再生基準							
実質赤字比率		-	11.25	20.00							

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

[illegible]

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和3年度

大阪府大阪市

人	口	2,732,197	人(R4.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%			
うち日本人	人	2,593,449	人(R4.1.1現在)	連	結	実	赤	字	比	-	%			
面積	積	225.33	k㎡	実	質	公	債	費	比	1.8	%			
歳入総額	額	2,003,680,509	千円	将	来	負	担	比	率	-	%			
歳出総額	額	1,962,155,183	千円	市	町	村	類	型	H29	政令市	H30	政令市	R01	政令市
実質収支	収支	30,796,464	千円	(	年	度	毎	)	R02	政令市	R03	政令市		
標準財政規模	財政規模	899,578,624	千円											
地方債現在高	債現在高	1,702,596,158	千円											

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の翌年の地方公務員給与実態調査に基づいているが、令和3年度は令和3年調査の数値を引用している。

財政力

財政力指数

[0.92]

類似団体内順位

5/20

全国平均

0.50

大阪府平均

0.70

財政力指数の分析欄

本市の財政力指数は0.92～0.94と、他の政令市と比べ高い水準で推移しているが、地方交付税の交付団体であり、R3年度は臨時財政対策債(※)において、926億円の補填措置が講じられている。

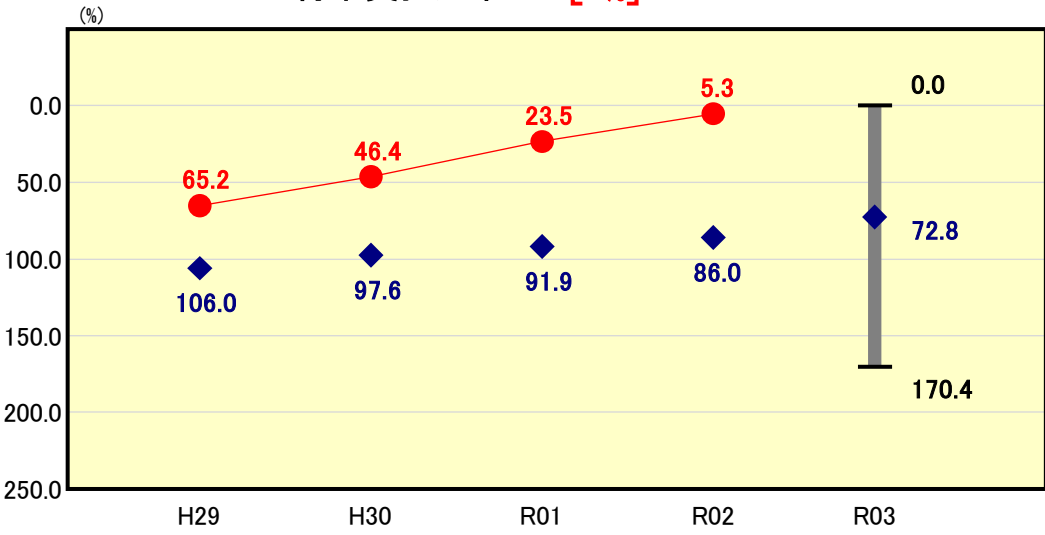
また、直近の状況については、法人市民税(法人税割)など基準財政収入額の減等により、前年度に比し△0.02ポイント下落している。

(※)地方全体の財源不足に対処するため、特例的に発行する地方債であり、償還に要する費用は後年度の地方交付税算定における基準財政需要額に全額算入される

将来負担の状況

将来負担比率

[-%]



類似団体内順位

1/20

全国平均

15.4

大阪府平均

0.0

将来負担比率の分析欄

これまでの市政改革の取組により、地方債の発行を抑制してきたことで、地方債残高が毎年度着実に減少している。

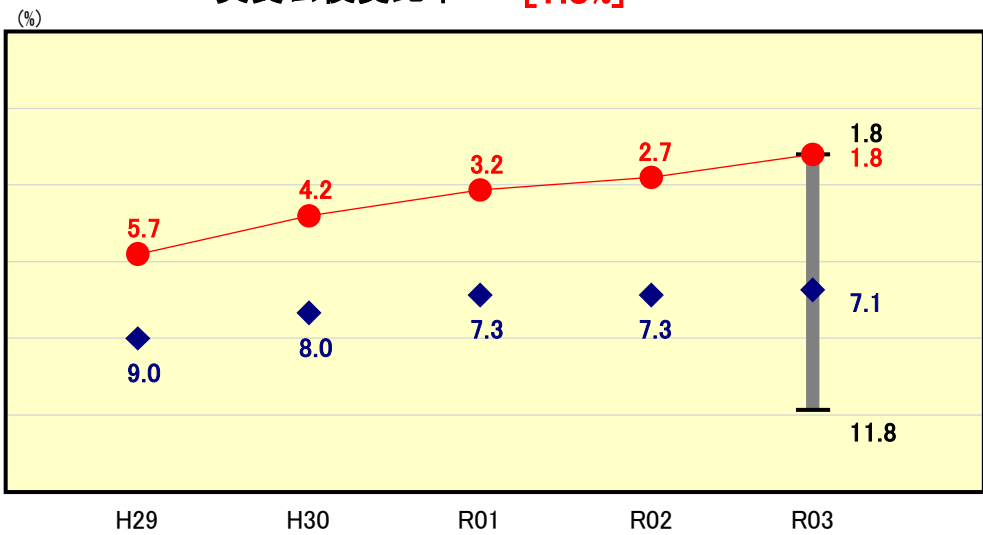
令和3年度は充当可能財源等が将来負担額を上回り、比率なしとなり、類似団体中最も低い水準となっている。

今後も引き続き市債残高のマネジメントに取り組む。

公債費負担の状況

実質公債費比率

[1.8%]



類似団体内順位

1/20

全国平均

5.5

大阪府平均

2.9

実質公債費比率の分析欄

地方債残高の減少や金利の低下に伴う利子の減などにより毎年度着実に改善しており、令和3年度は類似団体中最も低い水準となっている。

今後も引き続き市債残高のマネジメントに取り組む。

財政構造の弾力性

経常収支比率

[85.1%]

類似団体内順位

1/20

全国平均

88.9

大阪府平均

89.3

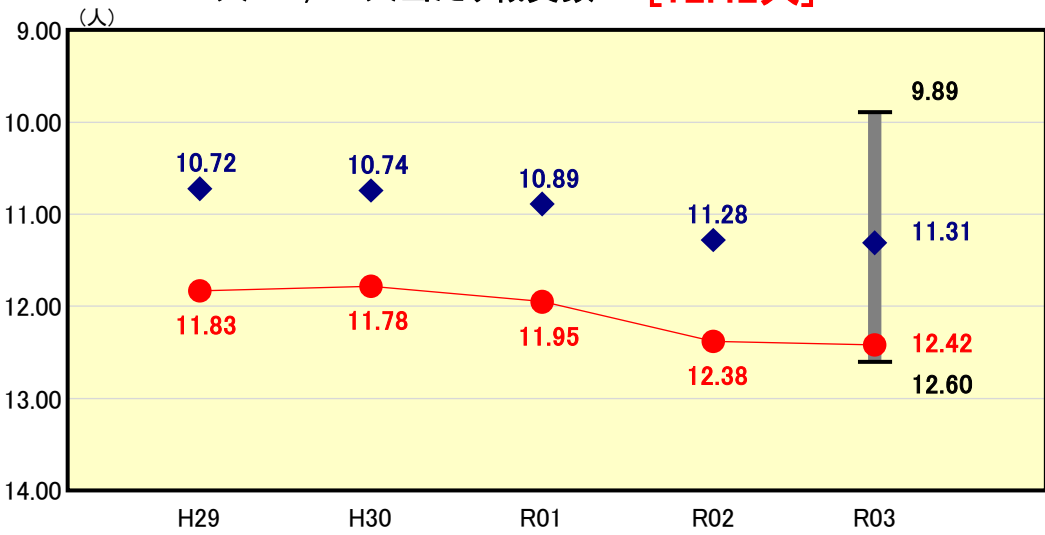
経常収支比率の分析欄

地方税や地方交付税・臨時財政対策債などの経常一般財源が大幅に増となったことなどにより、前年度決算と比較して9.2ポイント好転し、85.1%となり、類似団体中最も低い水準となっている。

定員管理の状況

人口1,000人当たり職員数

[12.42人]



類似団体内順位

18/20

全国平均

8.21

大阪府平均

8.52

人口1,000人当たり職員数の分析欄

令和3年4月1日の職員数は33,923人(前年比+1,304人)となっており、人口千人あたりの職員数は昨年と比較して概ね横ばい(+0.04人)となっている。

なお、本市では平成18年度から効果的・効率的な行財政運営をめざして市政改革を進めてきており、平成24年7月に策定した「市政改革プラン」や、平成28年8月に策定した「市政改革プラン2.0」に基づき人員見直しの取組を進めてきた。同プランに基づき、令和元年10月1日までに、経営システムの見直し等や、万博、G20等の期間を限定した臨時的増員を除き、835人の削減を行った。

今後は、「市政改革プラン3.1」に基づき、「民でできることは民で」という考え方のもと、技能労務職員について、令和5年10月1日までに400人削減を目標とし、引き続き委託化、効率化を図っていく。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額

[172,741円]

類似団体内順位

11/20

全国平均

155,088

大阪府平均

142,758

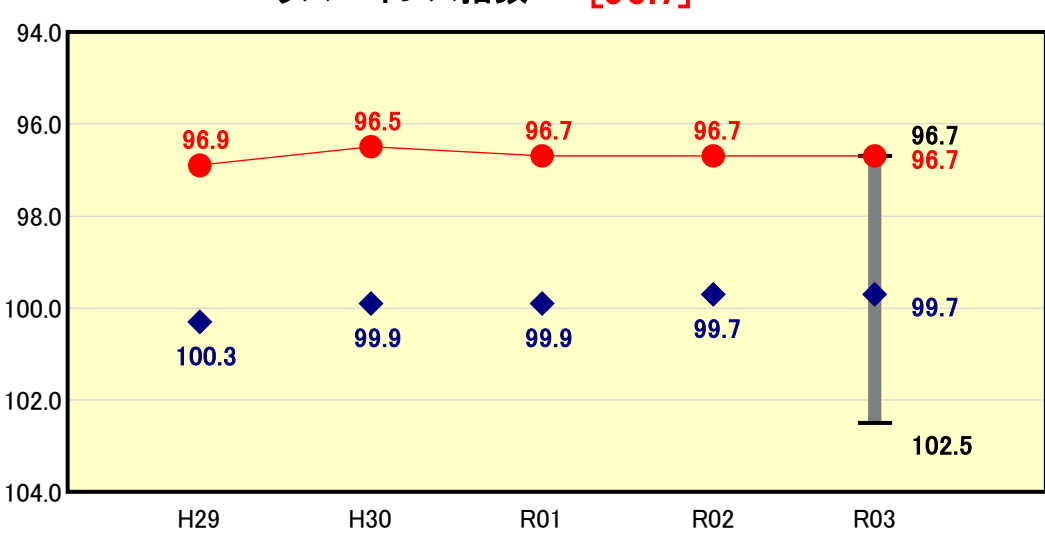
人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

この間の市政改革の取組で、施策・事業の見直しに取り組んできており、一定の成果もあげていることなどから、昨年度に引き続き類似団体内平均と概ね同水準となっている。

給与水準(国との比較)

ラスパイレス指数

[96.7]



類似団体内順位

1/20

全国市平均

98.8

全国町村平均

96.3

ラスパイレス指数の分析欄

平成27年度の本市人事委員会勧告のマイナス改定(行政職の改定率▲2.54%)の実施及び給与制度の総合的見直しによる改定(行政職の改定率▲0.89%)の実施以降、類似団体中最低水準で推移し、平成30年度に給料月額額の減額措置にかかる対象職員を縮小したことにより指数が上昇したものの、それ以降も最低水準で推移している。

令和2年度については民間給与との較差(▲0.03%)が小さく、給料表及び諸手当の適切な改定を行うことが困難であることから、月例給の改定を行わなかったため、給与水準に変化はなく引き続き、類似団体中最低水

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

経常収支比率の分析

人口	2,732,197	人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	2,593,449	人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	225.33	km ²	実質公債費比率	1.8	%
歳入総額	2,003,680,509	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	1,962,155,183	千円			
実質収支	30,796,464	千円	市町村類型	H29 政令市 H30 政令市 R01 政令市	
標準財政規模	899,578,624	千円	(年度毎)	R02 政令市 R03 政令市	
地方債現在高	1,702,596,158	千円			

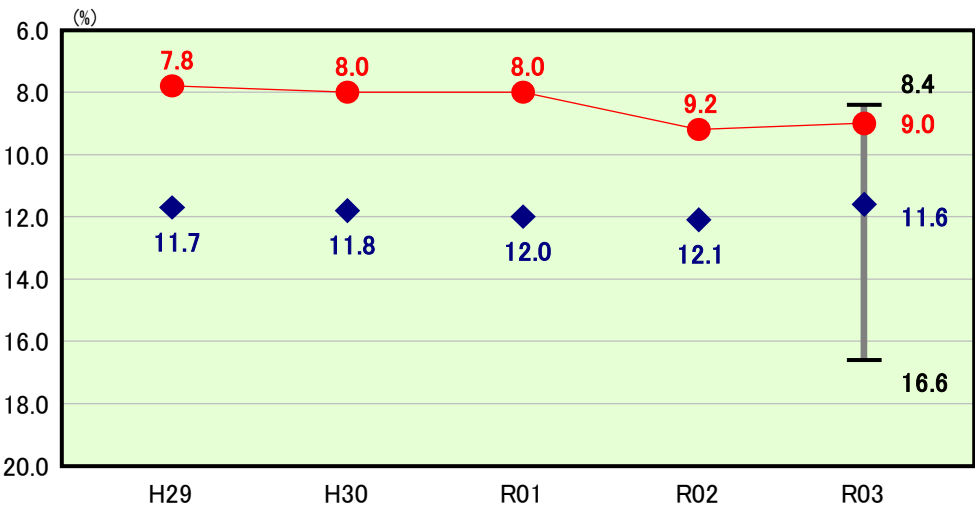
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



物件費

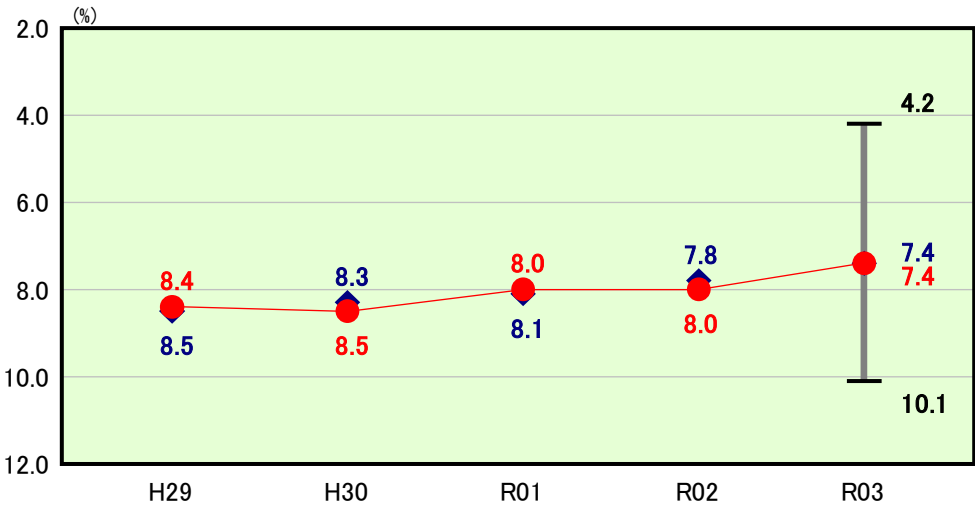


類似団体内順位 2/20 全国平均 13.8 大阪府平均 12.2

物件費の分析欄

昨年度と比較して概ね横ばい(▲0.2ポイント)となっている。
この間の市政改革の取組で、施策・事業の見直しに取り組んできており、一定の成果をあげたことから、類似団体内平均を大きく下回っている。

補助費等

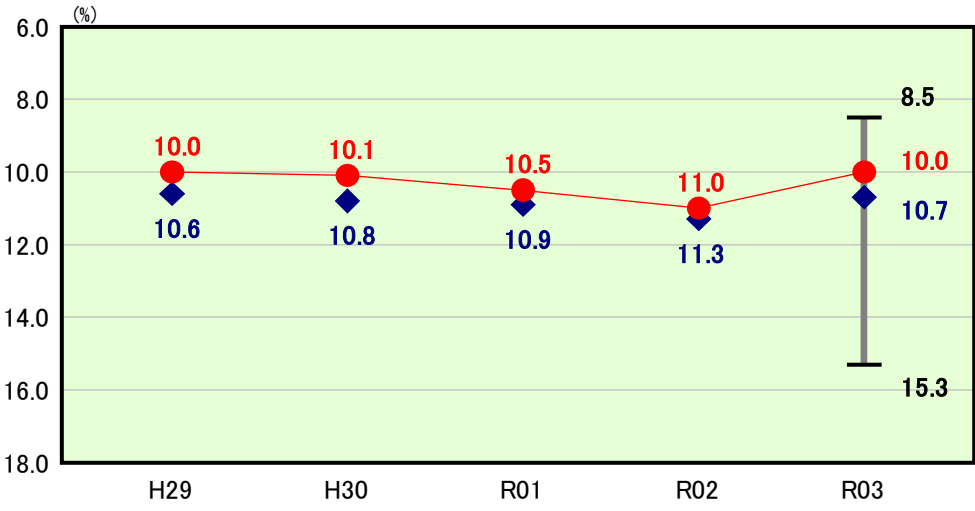


類似団体内順位 15/20 全国平均 10.2 大阪府平均 9.1

補助費等の分析欄

昨年度と比較して0.6ポイント好転している。
平成18年度に策定した「補助金等のあり方に関するガイドライン」に基づき、引き続き不断の見直しによる補助金の適正化を進めるなど更なる削減に努めている。

その他

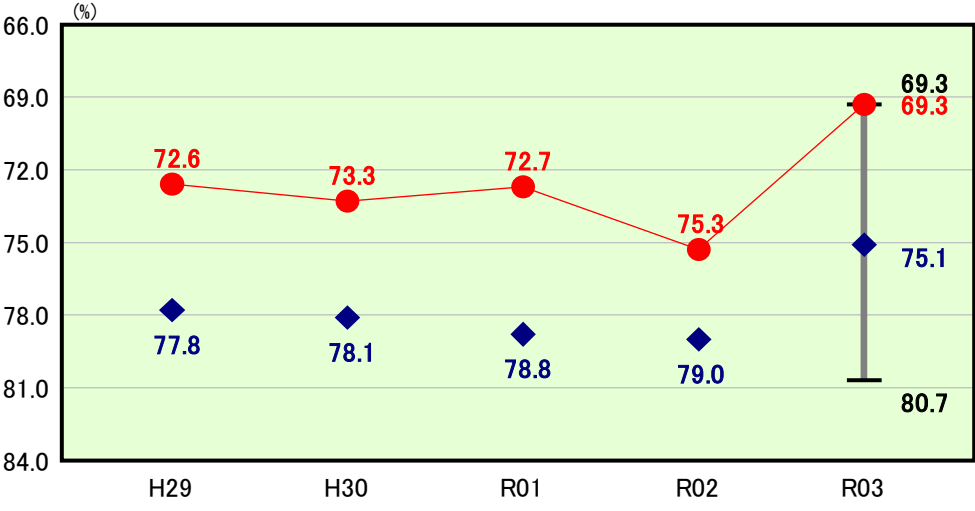


類似団体内順位 6/20 全国平均 12.0 大阪府平均 12.1

その他の分析欄

昨年度と比較して1.0ポイント好転している。
高齢化の進展に伴い、介護保険事業会計及び後期高齢者医療事業会計への繰出金が増加傾向にあるものの、この間効率的・効率的な行財政運営をめざして、市政改革を進めてきた結果、類似団体内平均を下回る傾向が続いている。

公債費以外

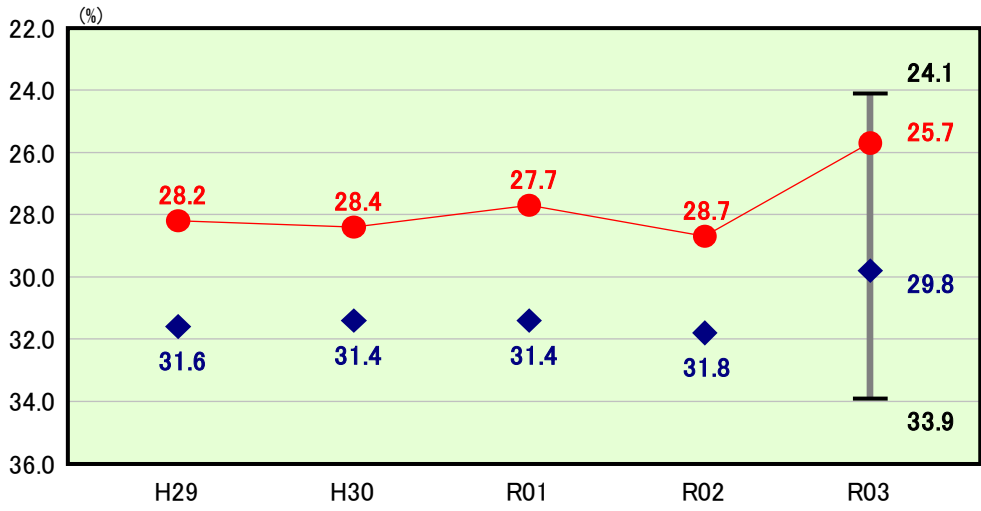


類似団体内順位 1/20 全国平均 73.2 大阪府平均 75.0

公債費以外の分析欄

昨年度と比較して6.0ポイント好転している。
物件費にかかる経常収支比率が類似団体内平均との比較で低い水準にあることから、令和3年度決算において、類似団体中最も低い水準となっている。

人件費

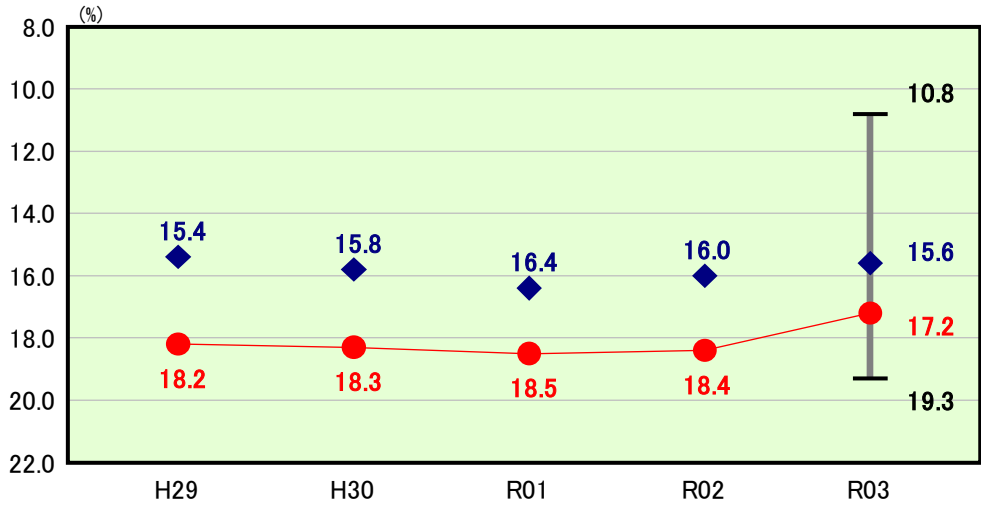


類似団体内順位 3/20 全国平均 25.2 大阪府平均 25.3

人件費の分析欄

昨年度と比較して3.0ポイント好転している。
なお、「定員管理の状況」と「給与水準(国との比較)」にもあるように、この間職員数の削減に取り組んできたことや、人事委員会勧告による給与改定の反映、給与制度の総合的な見直しに取り組んできたことなどにより、人件費にかかる経常収支比率は類似団体内平均を大きく下回っている。

扶助費

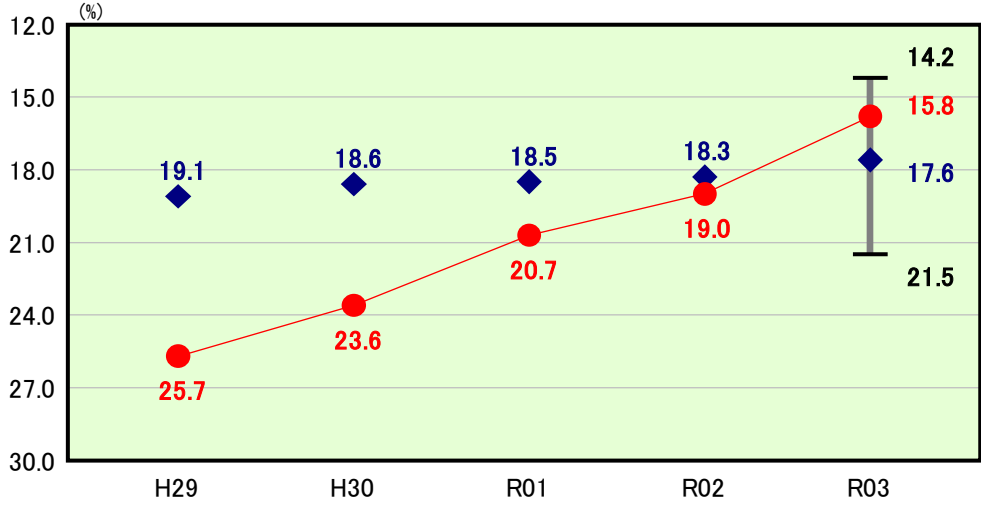


類似団体内順位 15/20 全国平均 12.0 大阪府平均 16.3

扶助費の分析欄

障がい者自立支援給付費が増となったものの、生活保護費が10年連続の減となったことなどにより、昨年度と比較して0.8ポイント好転している。
引き続き、生活保護の適正実施などに取り組んでいるものの、依然として類似団体内平均より高い傾向が続いている。

公債費



類似団体内順位 4/20 全国平均 15.7 大阪府平均 14.3

公債費の分析欄

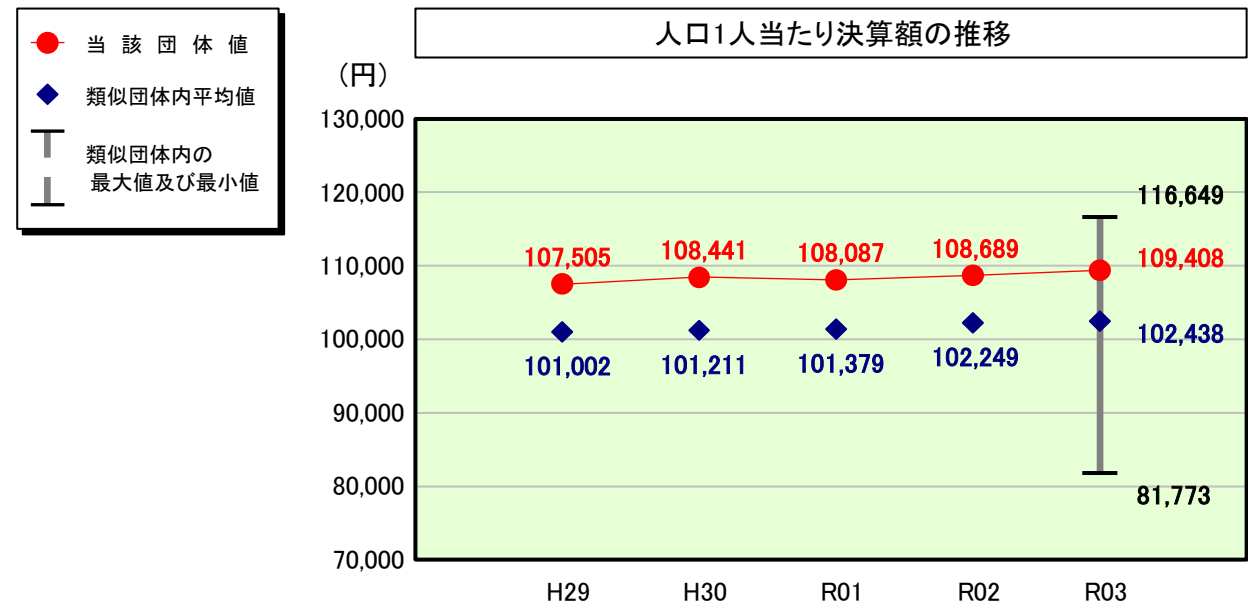
元利償還額の減などにより昨年度と比較して3.2ポイント好転している。
近年においては、臨時財政対策債の多額の発行があるものの、その他の新規発行額を極力抑制してきたことから、令和3年度決算において、地方債残高は16年連続して減少しており、類似団体内平均を下回っている。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

大阪府大阪市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

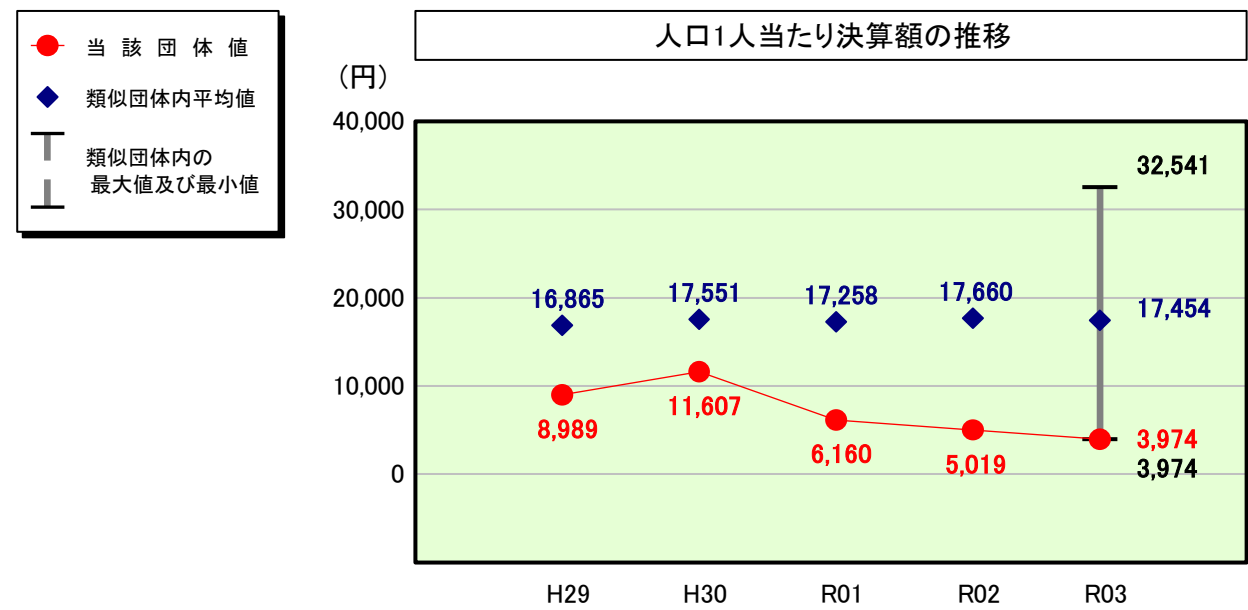
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	307,224,797	112,446	105,428	6.7
一部事務組合負担金 (補助費等)	1,969,432	721	108	567.6
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	649,761	238	1,092	▲ 78.2
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	5	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	5,482,491	2,007	1,959	2.5
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	3,944,148	1,444	1,267	14.0
▲退職金	▲ 20,346,718	▲ 7,447	▲ 7,422	0.3
合計	298,923,911	109,408	102,438	6.8

参考

	当該団体	類似団体平均	対比 (差引)
人口1,000人当たり職員数 (人)	12.42	11.31	1.11
ラスパイレス指数	96.7	99.7	▲ 3.0

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

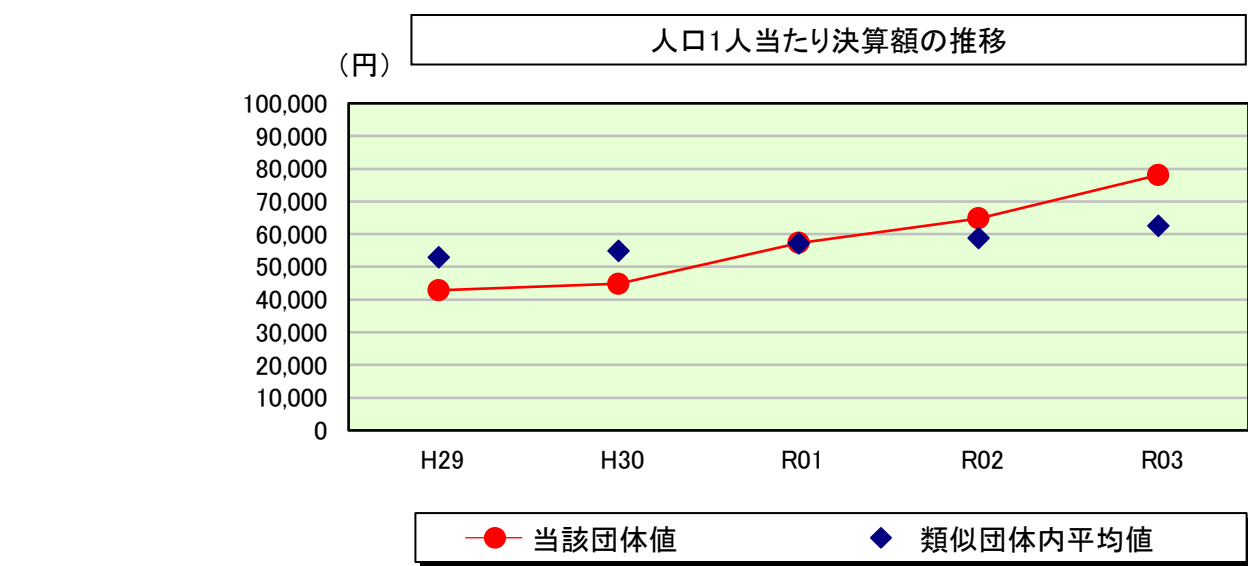


公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	85,462,826	31,280	31,345	▲ 0.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	2,339	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	73,889,994	27,044	20,945	29.1
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	19,393,580	7,098	9,788	▲ 27.5
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	600,357	220	145	51.7
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	11,259,294	4,121	1,430	188.2
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 80,176,771	▲ 29,345	▲ 16,549	77.3
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 99,571,902	▲ 36,444	▲ 31,989	13.9
合計	10,857,378	3,974	17,454	▲ 77.2

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

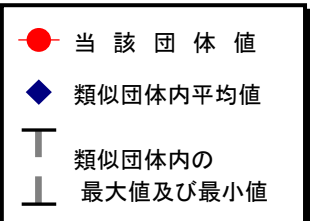
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A) - (B)
H29	115,756,512	42,834	15.2	52,897	2.3	12.9
うち単独分	41,661,382	15,416	0.7	27,013	1.3	▲ 0.6
H30	121,547,422	44,777	4.5	54,945	3.9	0.6
うち単独分	51,672,771	19,036	23.5	29,293	8.4	15.1
R01	156,343,461	57,260	27.9	57,132	4.0	23.9
うち単独分	65,289,022	23,912	25.6	30,126	2.8	22.8
R02	177,486,388	64,777	13.1	58,766	2.9	10.2
うち単独分	75,309,158	27,485	14.9	29,363	▲ 2.5	17.4
R03	213,337,472	78,083	20.5	62,482	6.3	14.2
うち単独分	92,886,795	33,997	23.7	34,626	17.9	5.8
過去5年間平均	156,894,251	57,546	16.2	57,244	3.9	12.3
うち単独分	65,363,826	23,969	17.7	30,084	5.6	12.1

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和3年度

大阪府大阪市

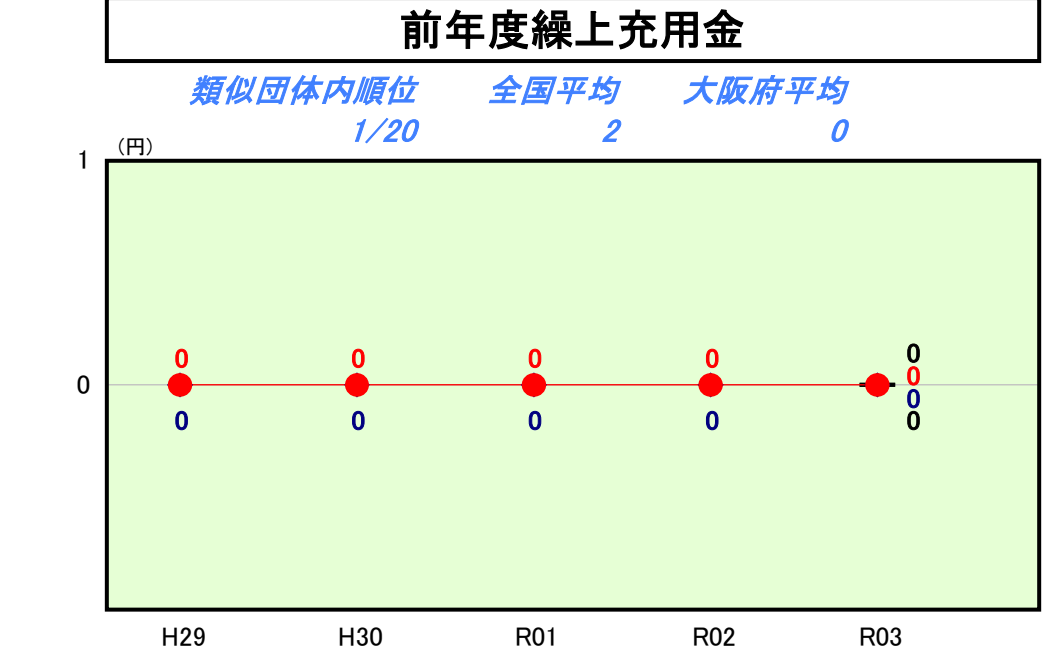
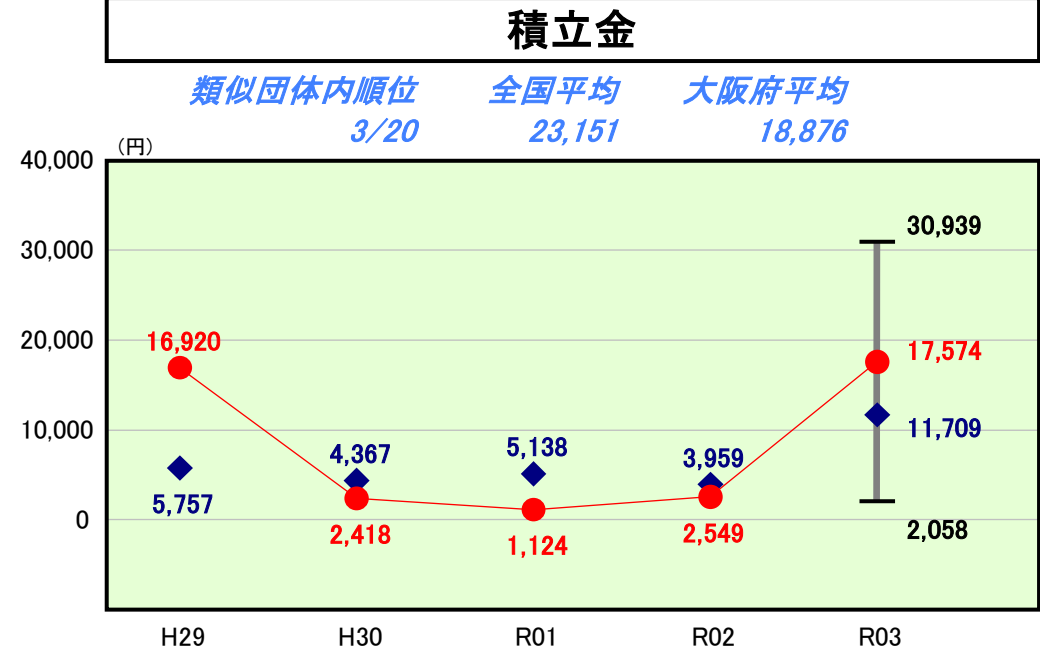
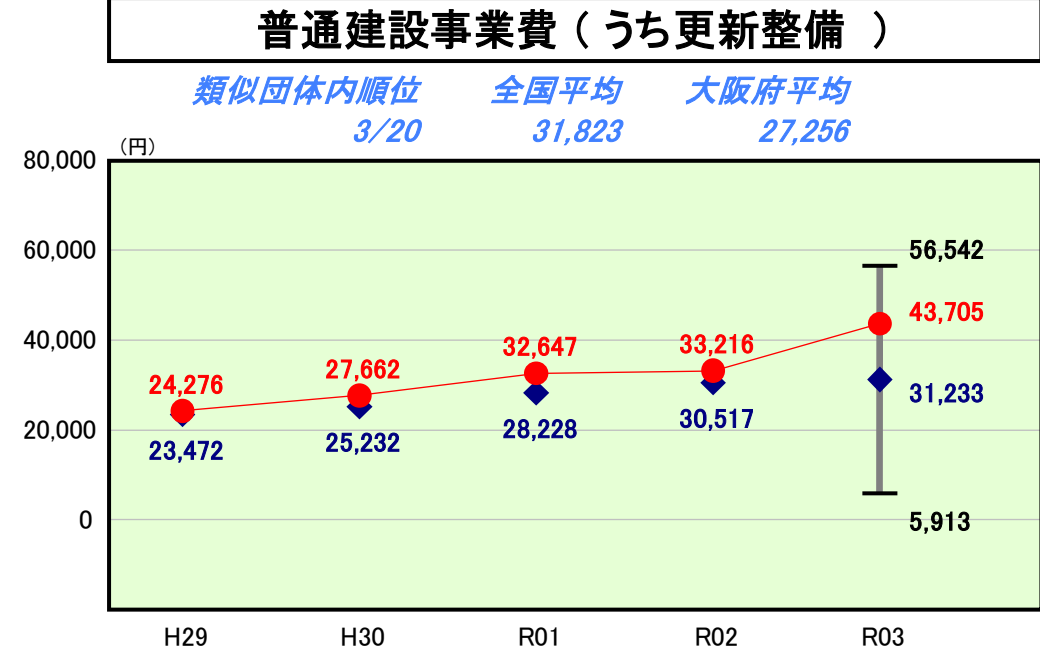
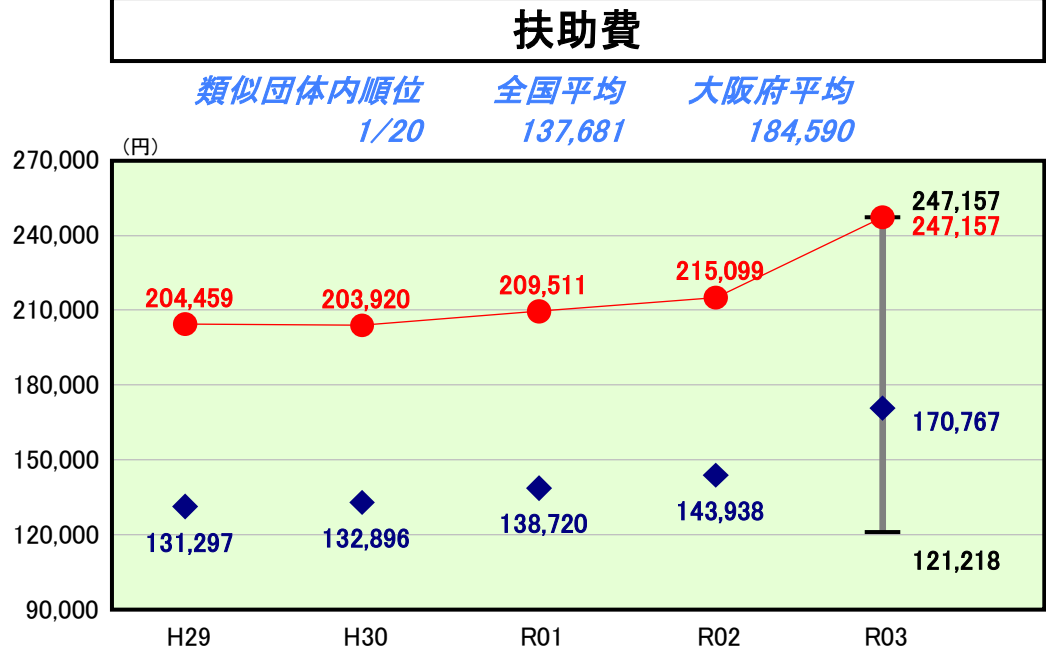
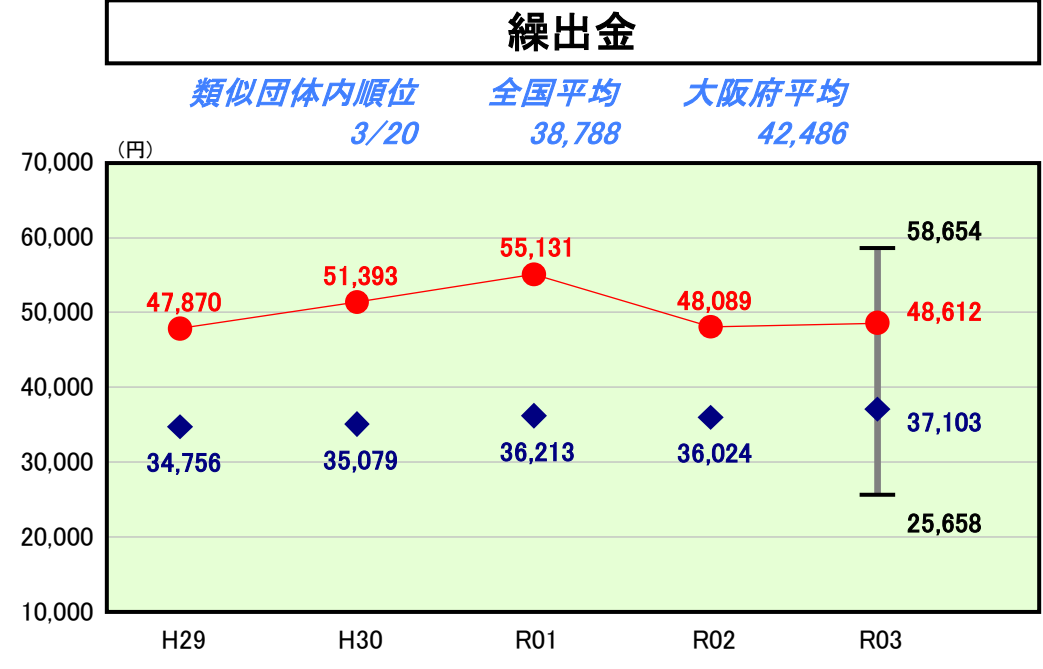
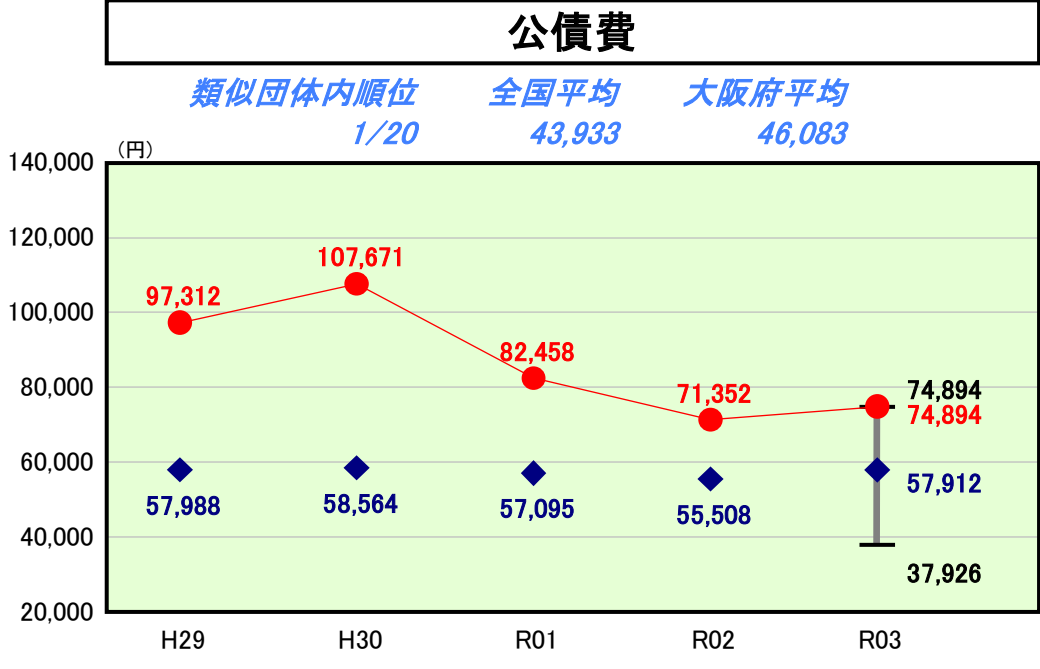
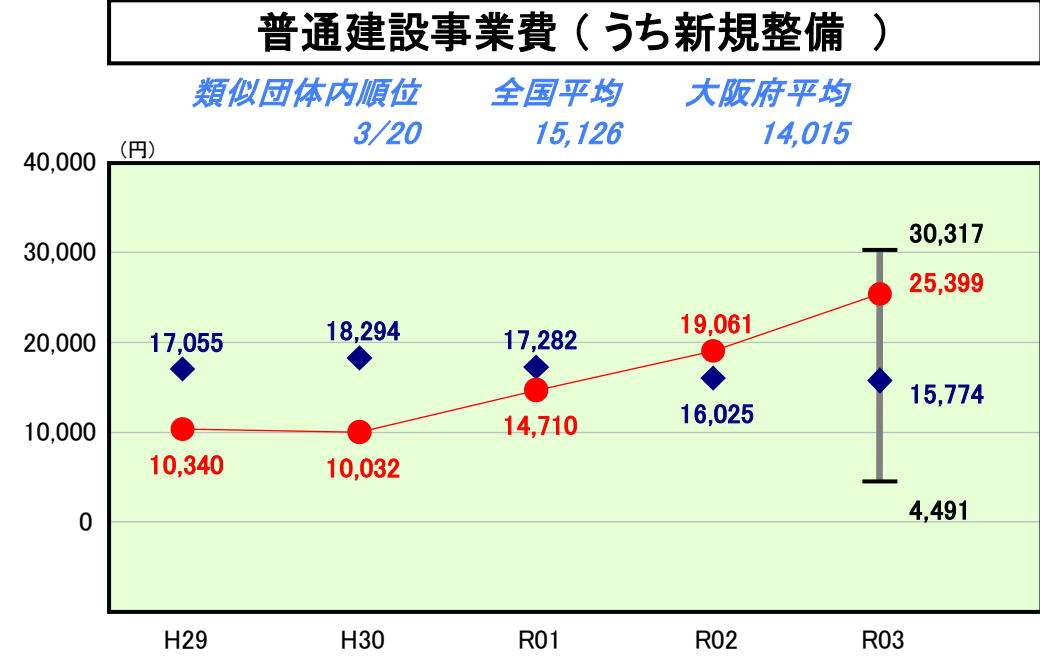
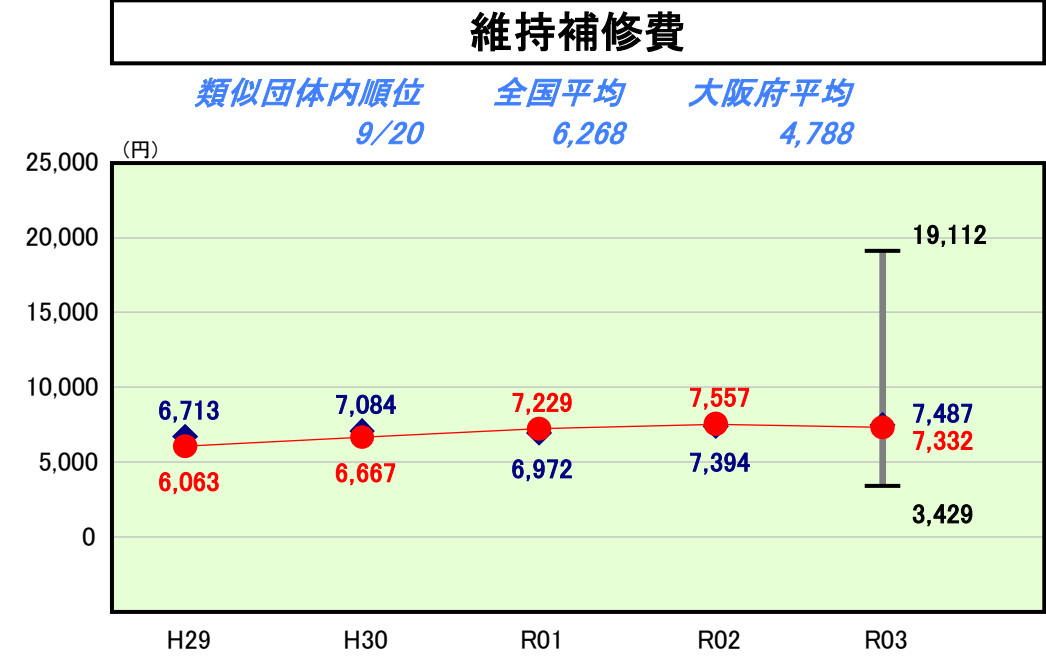
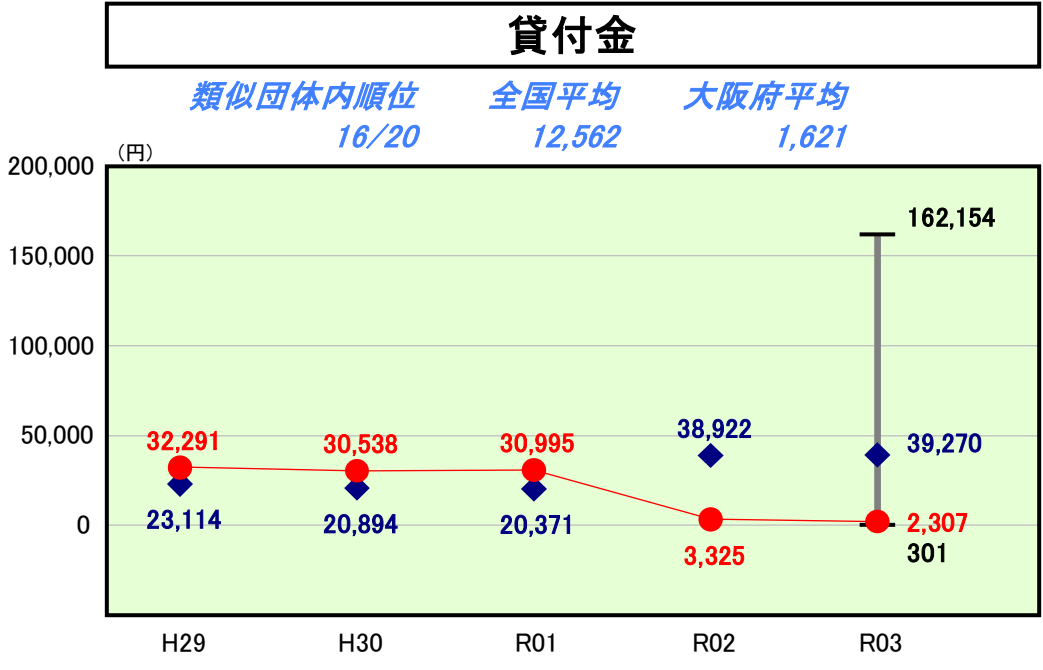
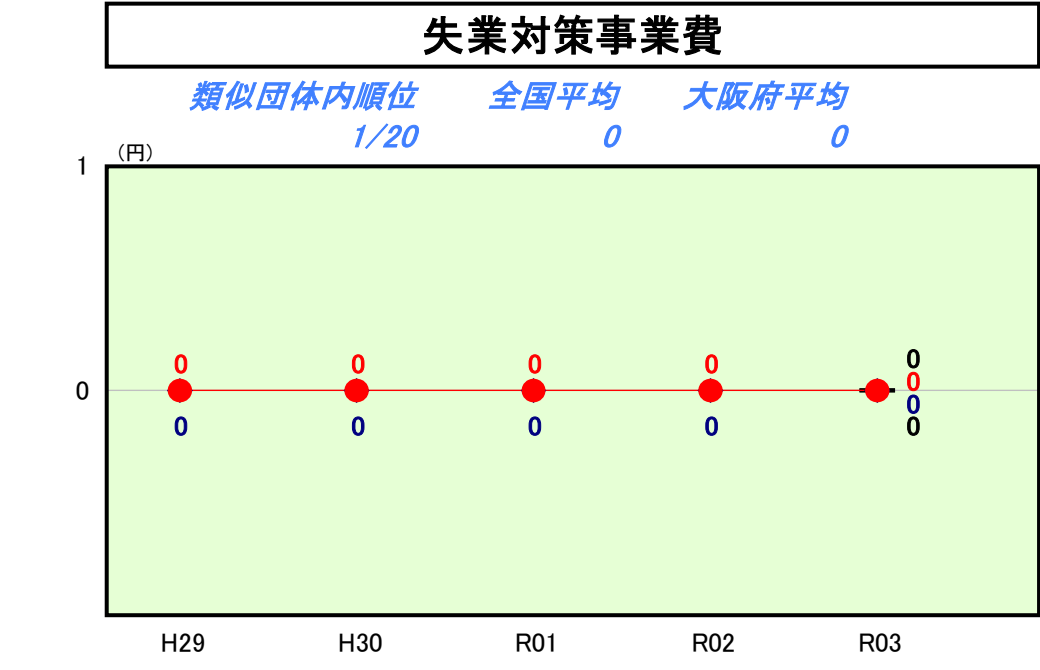
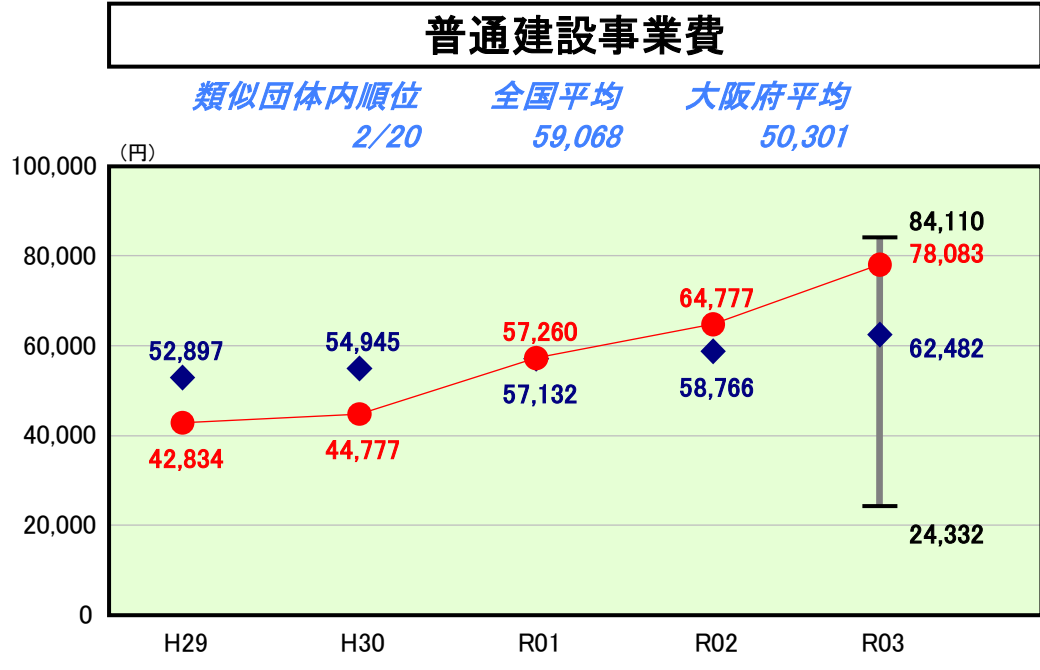
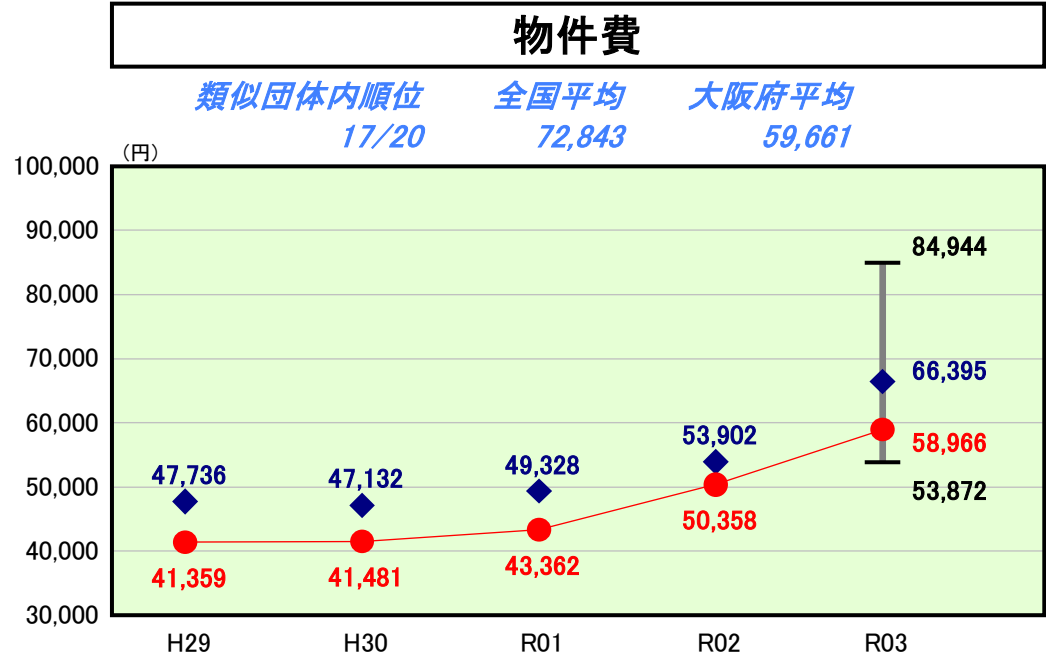
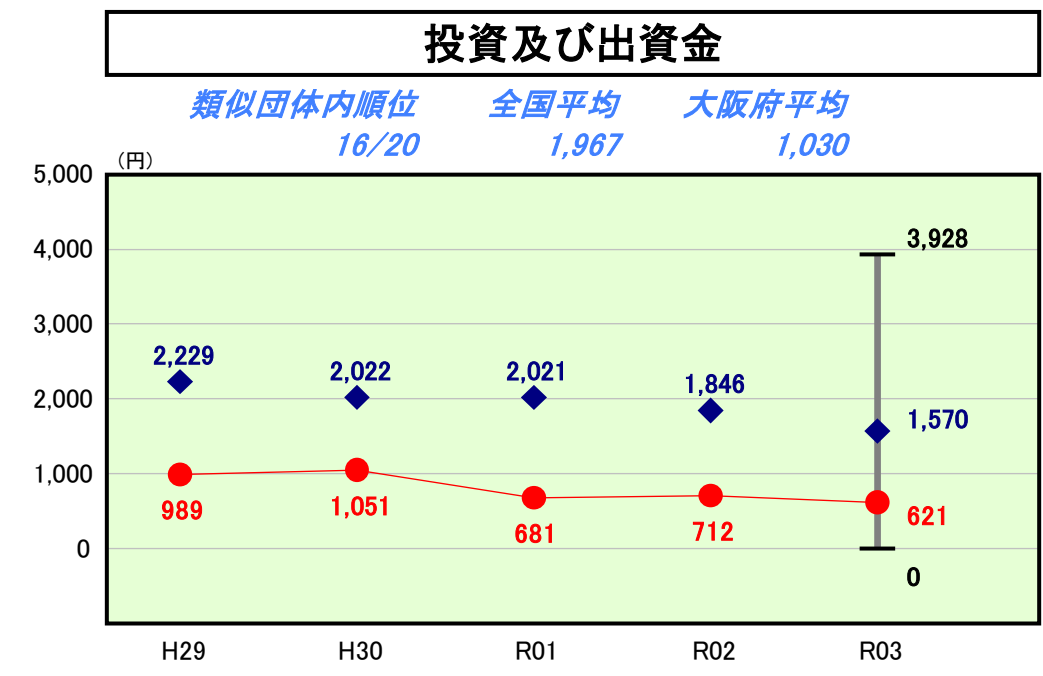
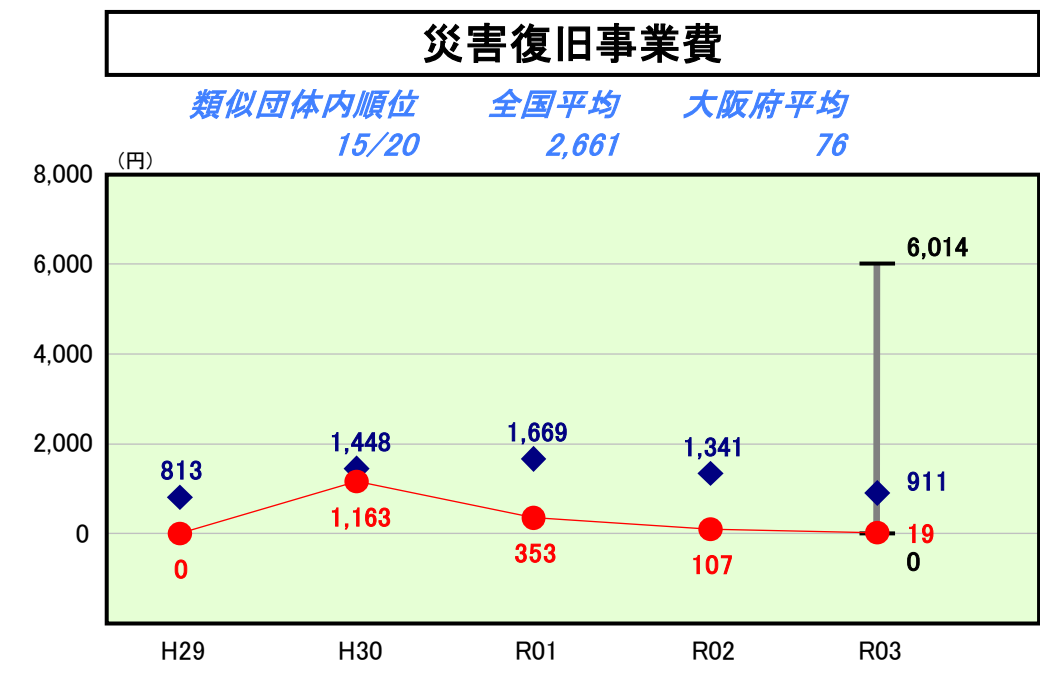
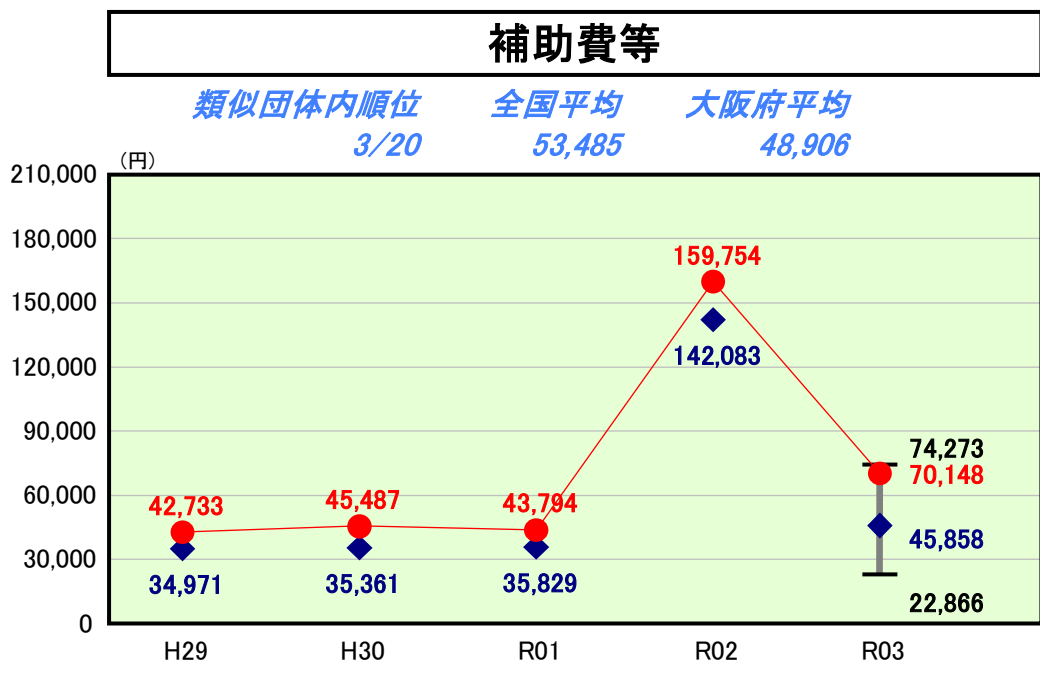
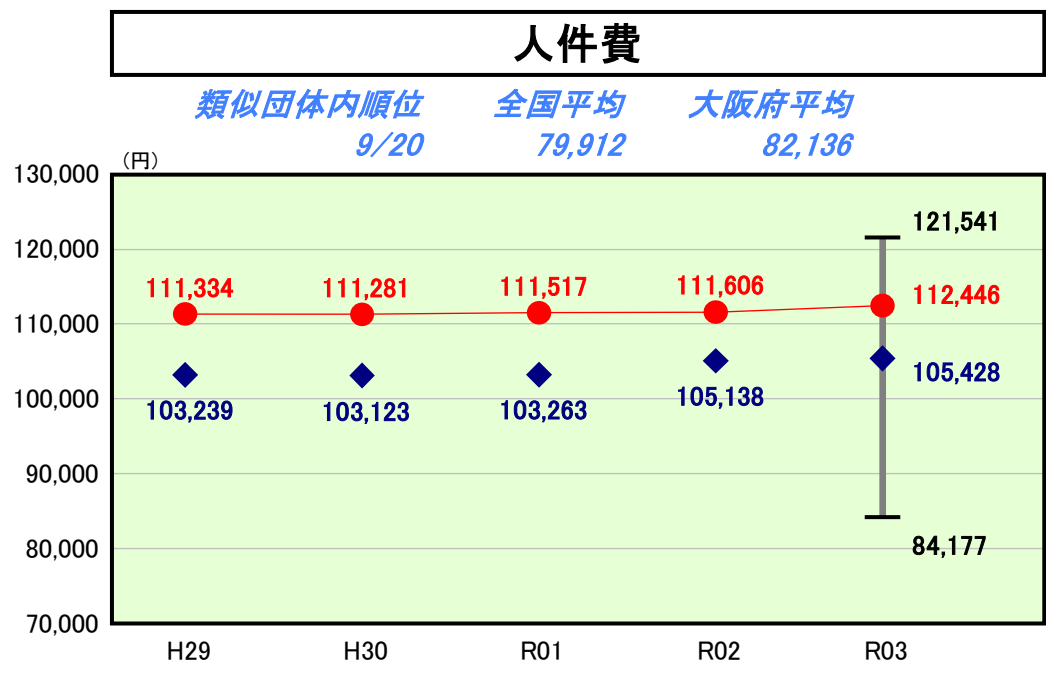
人口	2,732,197人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	2,593,449人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	225.33km ²	実質公債費比率	1.8%
歳入総額	2,003,680,509千円	将来負担比率	-%
歳出総額	1,962,155,183千円	市町村類型	H29 政令市 H30 政令市 R01 政令市
実質収支	30,796,464千円	(年度毎)	R02 政令市 R03 政令市
標準財政規模	899,578,624千円		
地方債現在高	1,702,596,158千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析欄

本市における主な構成費目は、人件費・扶助費・公債費であり、中でも扶助費及び公債費は、類似団体と比較して住民一人当たりコストが高い状況となっている。

扶助費については、生活保護費が減となったものの、新型コロナウイルス感染症対策として住民税非課税世帯等臨時特別給付金や子育て世帯臨時特別給付金の支給を行ったほか、障がい者自立支援給付費が増となったことなどにより増加している。

また、公債費については、国の補正予算により臨時財政対策債の償還財源として措置された地方交付税相当額の借換中止を行ったことなどにより昨年度と比べ増加している。

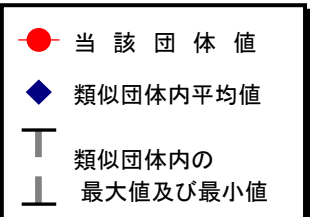
そのほか、補助費等は、昨年度に新型コロナウイルス感染症対策として実施した特別定額給付金の終了などにより減少しており、普通建設事業費は、淀川左岸線(2期)事業の増などにより増加している。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和3年度

大阪府大阪市

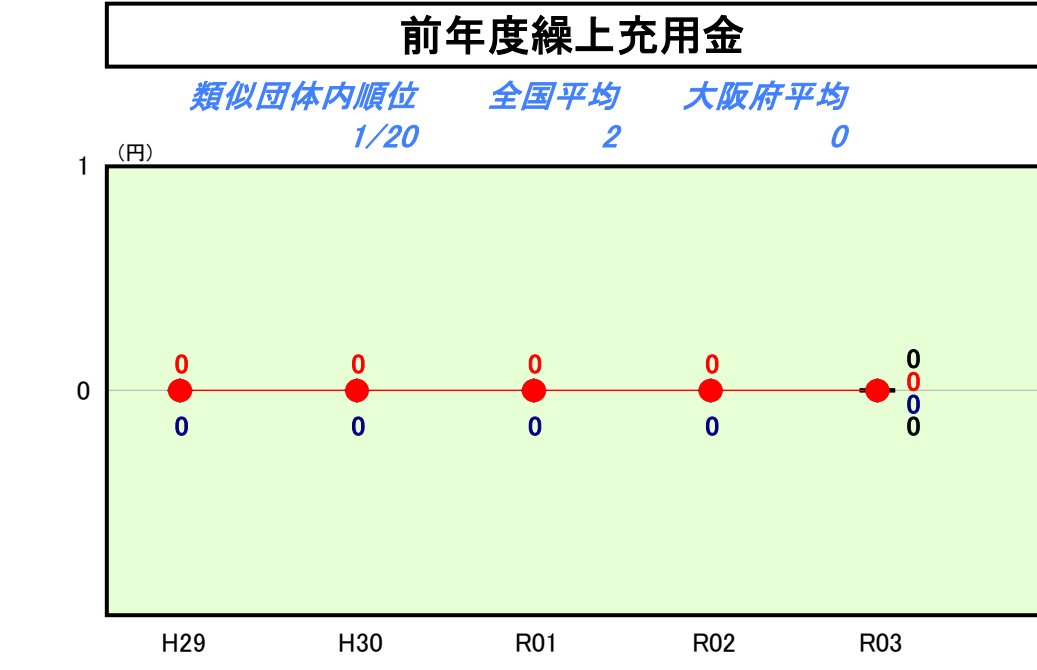
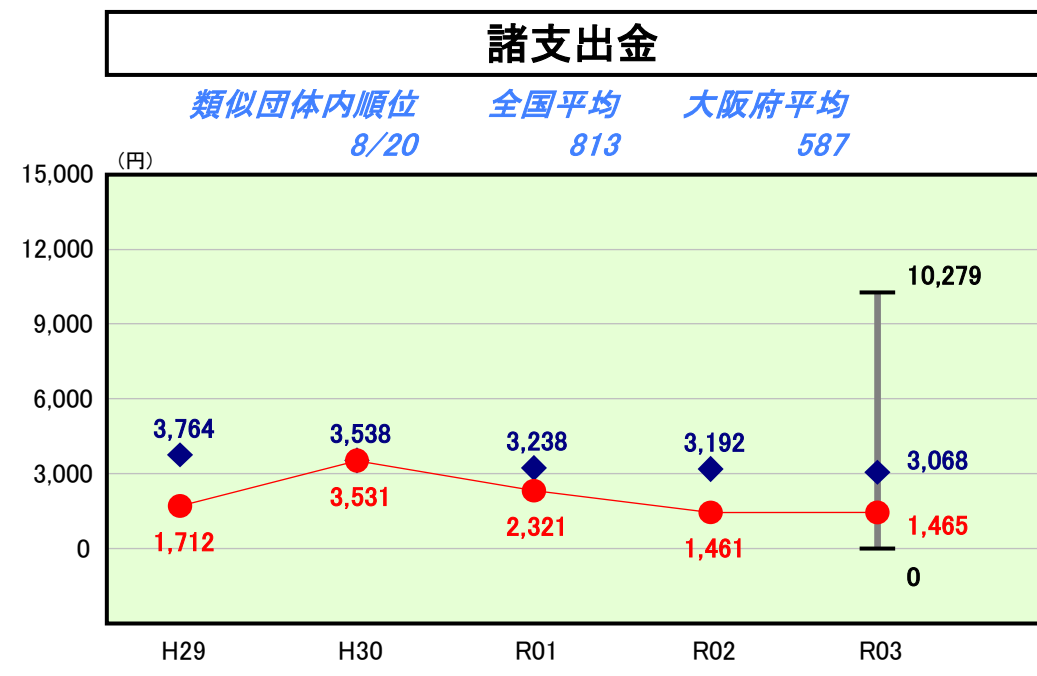
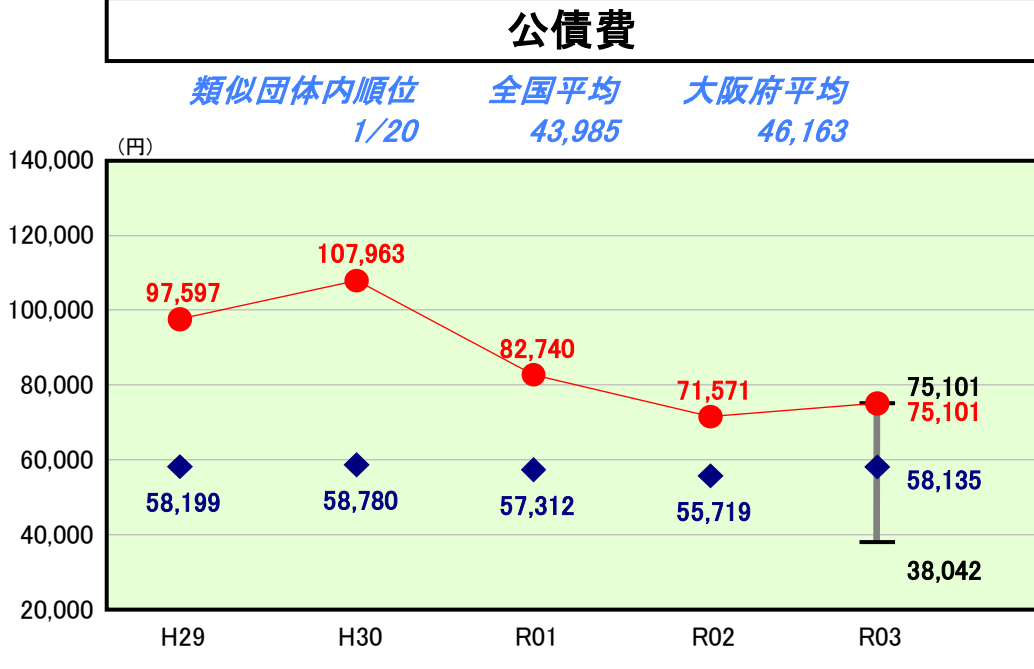
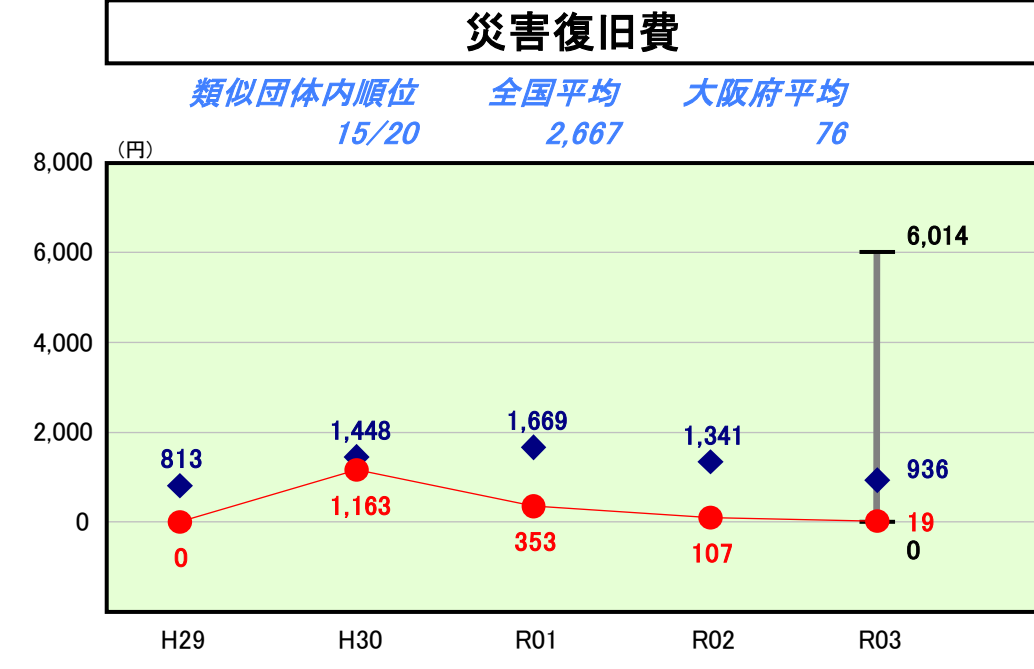
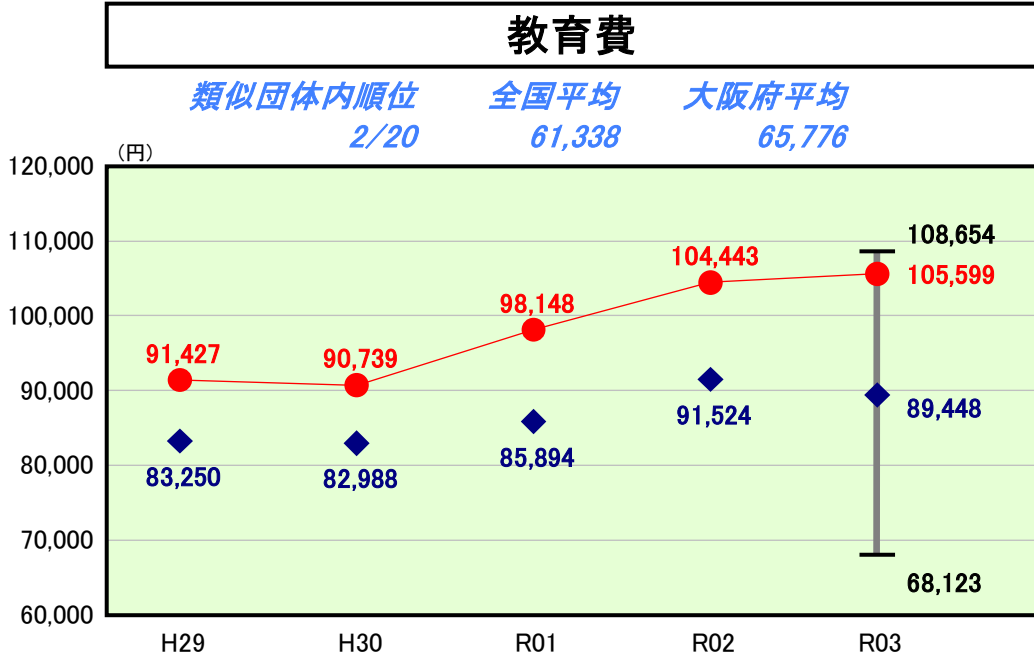
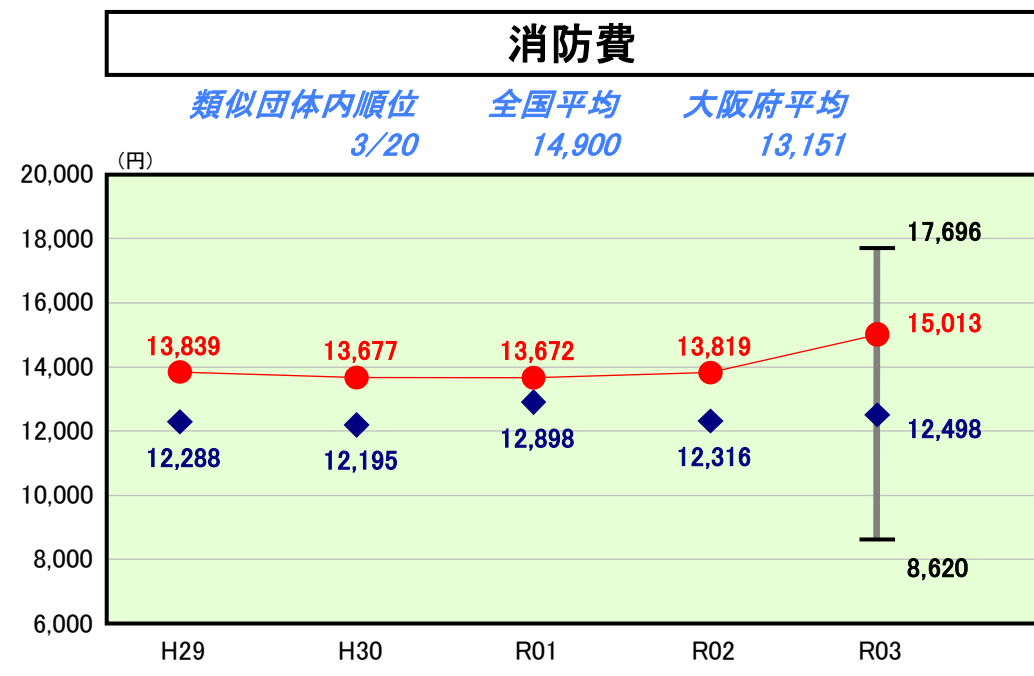
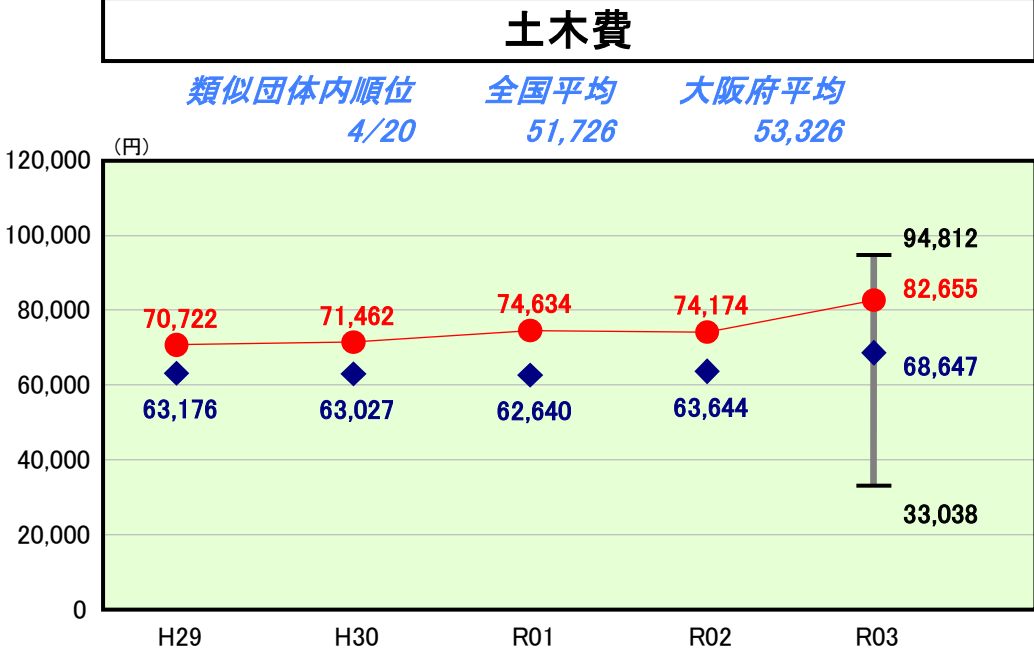
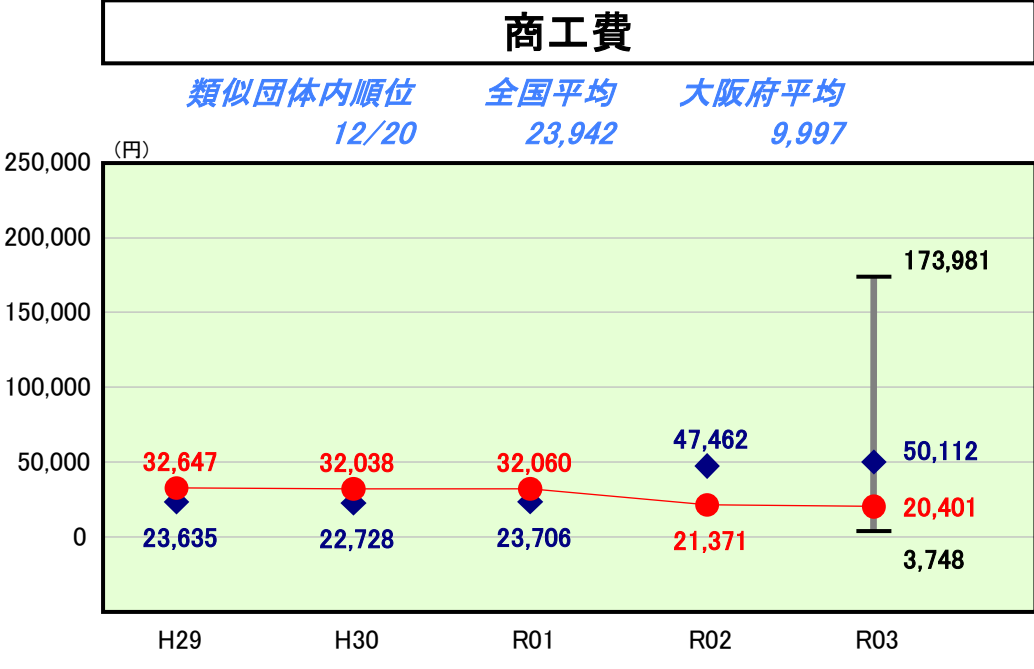
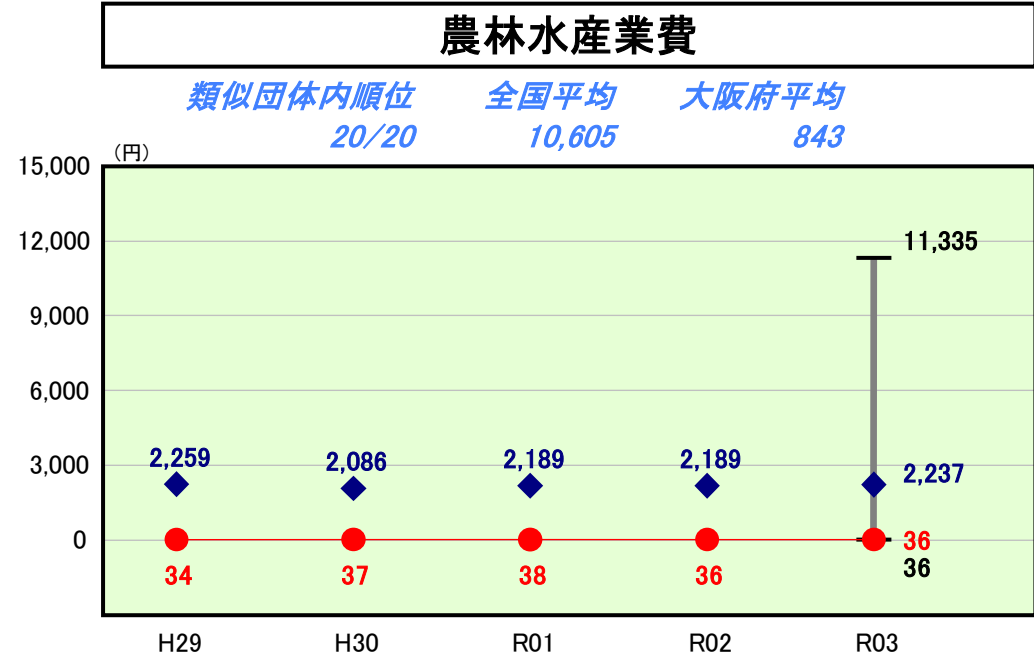
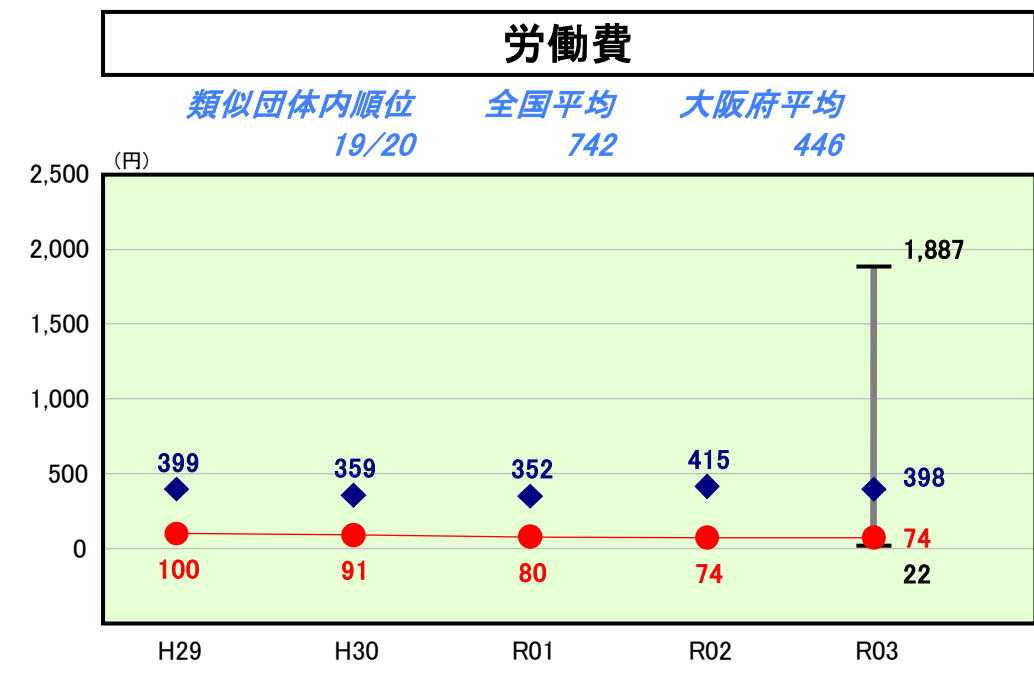
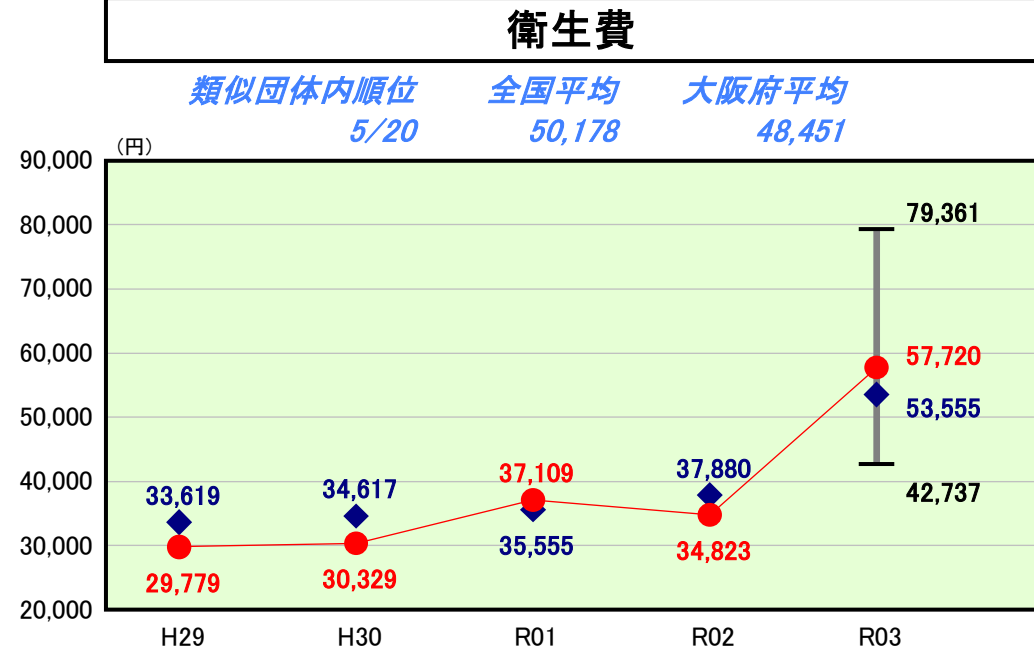
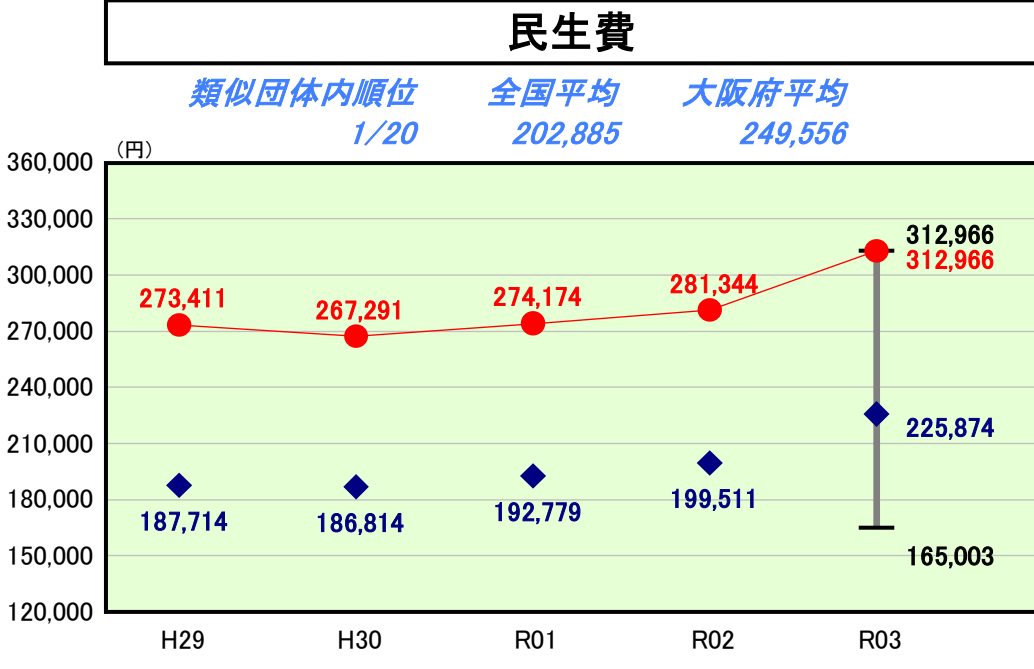
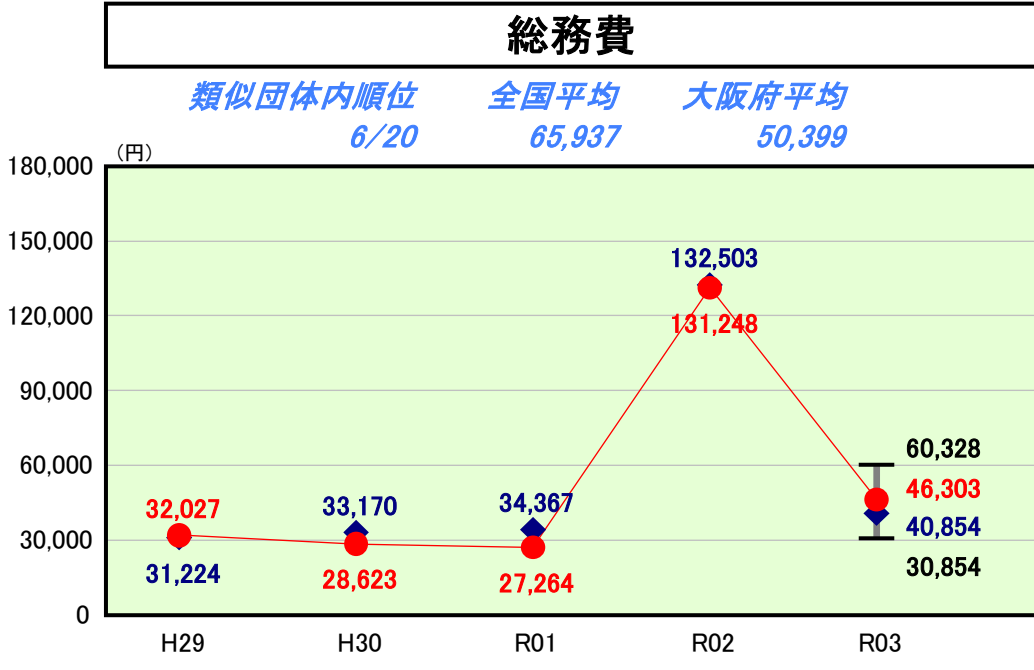
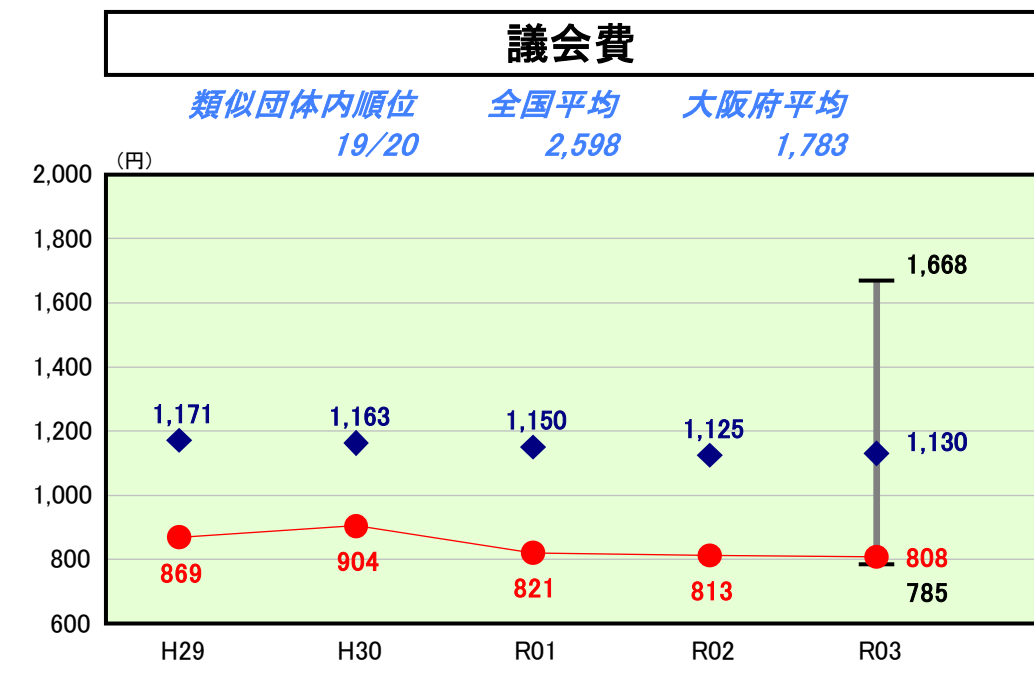
人口	2,732,197人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	2,593,449人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	225.33km ²	実質公債費比率	1.8%
歳入総額	2,003,680,509千円	将来負担比率	-%
歳出総額	1,962,155,183千円	市町村類型	H29 政令市 H30 政令市 R01 政令市
実質収支	30,796,464千円	(年度毎)	R02 政令市 R03 政令市
標準財政規模	899,578,624千円		
地方債現在高	1,702,596,158千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析欄

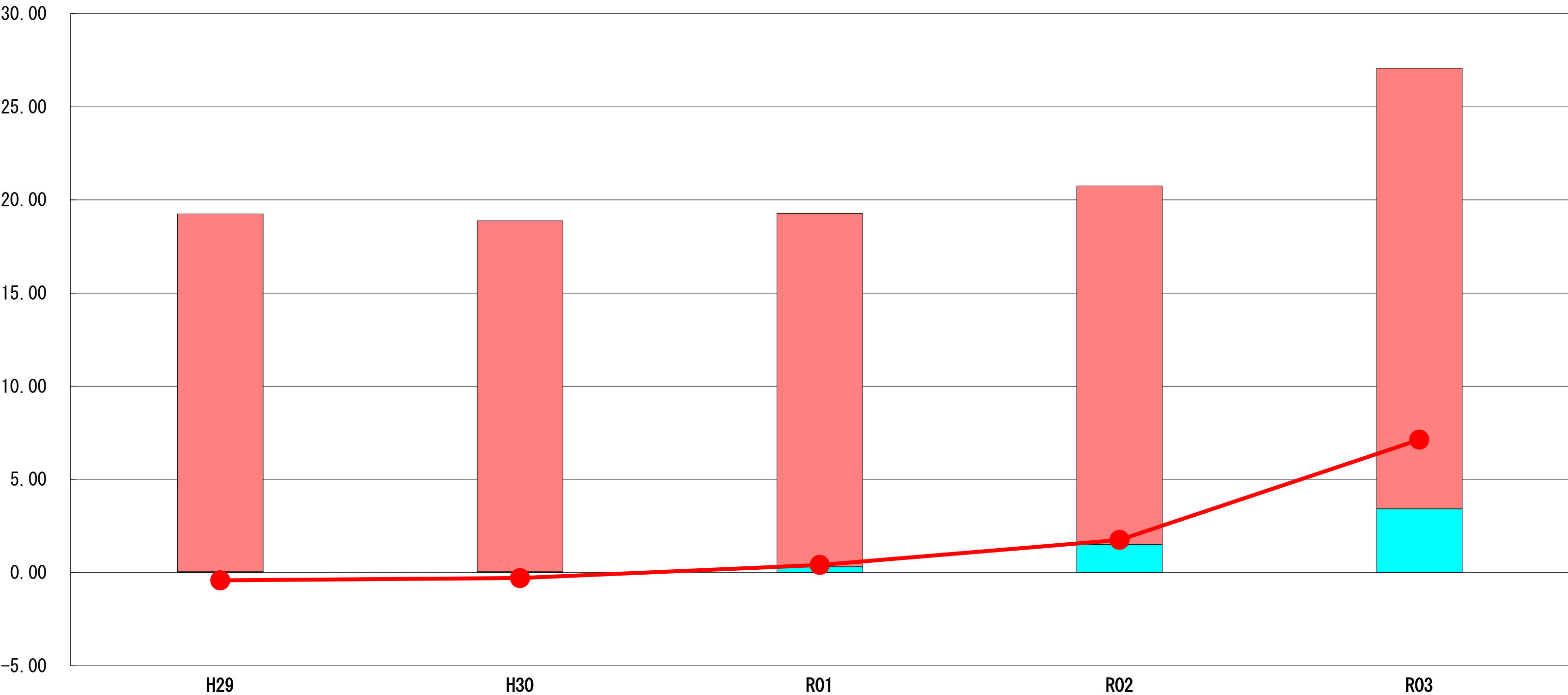
民生費、教育費及び公債費において、類似団体と比較して住民一人当たりコストが高い状況となっている。
民生費については、生活保護費が減となったものの、新型コロナウイルス感染症対策として住民税非課税世帯等臨時特別給付金や子育て世帯臨時特別給付金の支給を行ったほか、障がい者自立支援給付費が増となったことなどにより増加している。
教育費については、校舎補修等整備事業の増などにより増加している。
公債費については、国の補正予算により臨時財政対策債の償還財源として措置された地方交付税相当額の借換中止を行ったことなどにより昨年度と比べ増加している。
そのほか、総務費は、昨年度に新型コロナウイルス感染症対策として実施した特別定額給付金の終了などにより減少している。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和3年度

大阪府大阪市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	H29	H30	R01	R02	R03
財政調整基金残高		19. 21	18. 83	18. 97	19. 24	23. 65
実質収支額		0. 05	0. 05	0. 31	1. 51	3. 42
実質単年度収支		▲ 0. 42	▲ 0. 30	0. 40	1. 75	7. 13

分析欄

令和3年度決算については、令和2年度に実施した特別定額給付金事業（全額国支出金）の減が大きく、歳出・歳入の規模はともに減となった。そのほか、歳出は、扶助費や投資的経費に加え、収支改善分の財政調整基金への積立などが増となっている。歳入は、市税の増に加え、地方交付税・臨時財政対策債や譲与税・交付金が大きく増となっている。実質収支については308億円の剰余となり、標準財政規模に占める割合は1.9ポイント増加している。

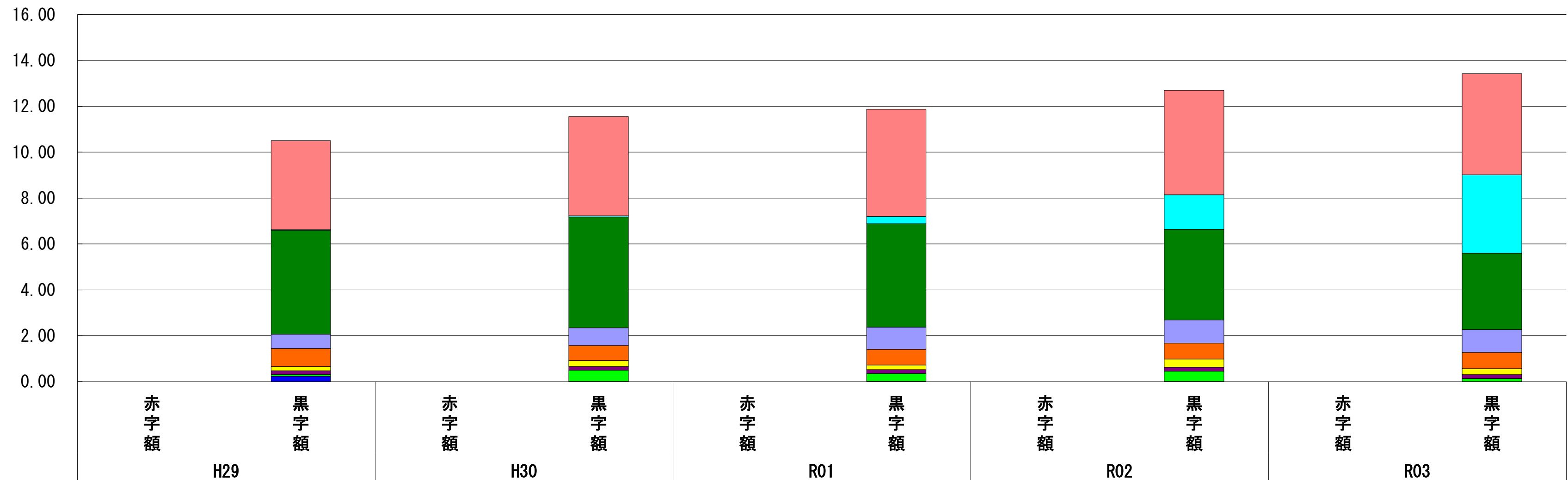
財政調整基金残高は、前年度決算剰余金の積立等に伴い増加し、標準財政規模に占める割合は23.65%となっている。また、収支改善見込額を財政調整基金に積立をしていることから、実質単年度収支も令和元年度以降、黒字である。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和3年度

大阪府大阪市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		H29	H30	R01	R02	R03
会計						
	下水道事業会計	3.87	4.32	4.67	4.55	4.40
	一般会計	0.04	0.05	0.31	1.50	3.42
	水道事業会計	4.53	4.84	4.51	3.95	3.33
	中央卸売市場事業会計	0.62	0.76	0.97	1.01	1.00
	工業用水道事業会計	0.78	0.66	0.69	0.70	0.70
	国民健康保険事業会計	0.19	0.26	0.19	0.35	0.26
	後期高齢者医療事業会計	0.16	0.17	0.17	0.18	0.18
	介護保険事業会計	0.08	0.48	0.34	0.44	0.13
	その他会計（赤字）	-	-	-	-	-
	その他会計（黒字）	0.23	0.01	0.02	0.01	0.00

分析欄

令和3年度決算においても、全ての会計において、黒字（資金剰余）となったため、連結実質赤字比率は生じていない。

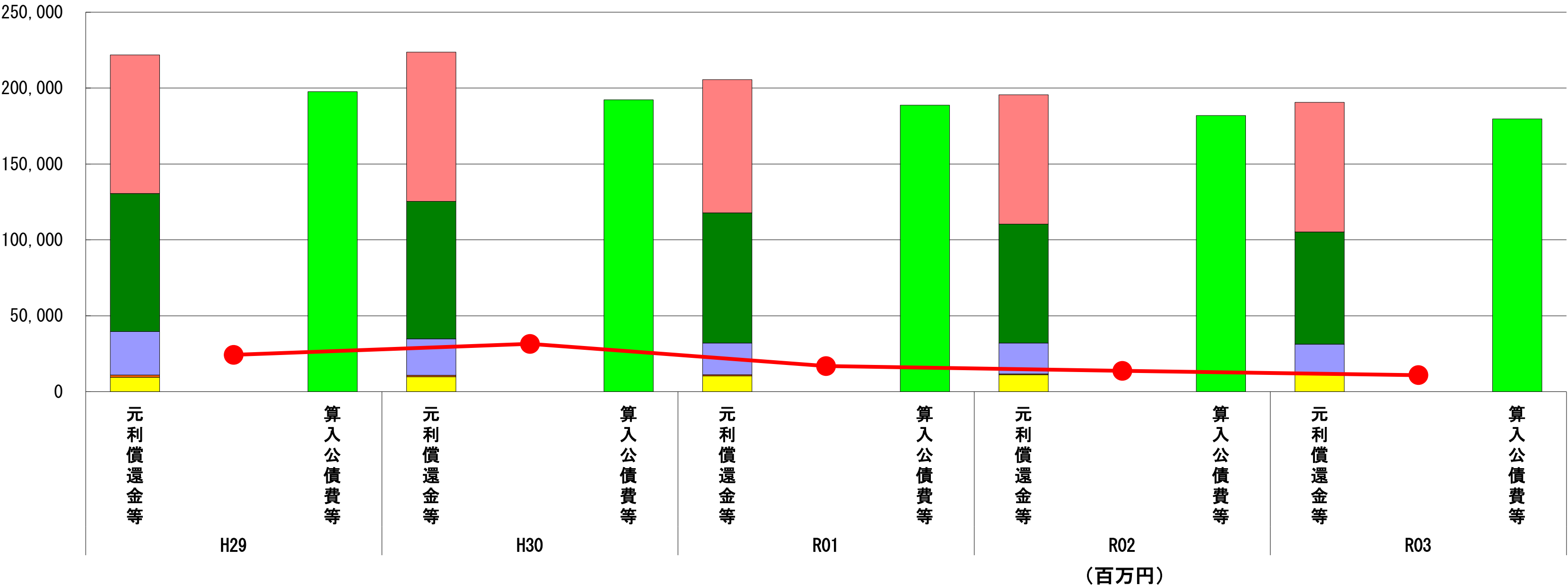
※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

大阪府大阪市

(百万円)



分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
元利償還金等 (A)	元利償還金		91,416	98,356	87,690	85,236	85,463
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		90,869	90,622	85,856	78,418	73,890
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		28,678	24,087	20,839	20,211	19,394
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		1,421	944	844	644	600
	債務負担行為に基づく支出額		9,504	9,777	10,345	11,126	11,259
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		197,595	192,279	188,754	181,883	179,749
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		24,293	31,507	16,820	13,752	10,857

分析欄

地方債残高の減少や金利の低下に伴う利子の減などにより毎年度着実に減少している。
なお、平成30年度における実質公債費比率の分子が増加している要因は、交通事業の民営化に伴い、自動車運送事業会計及び高速鉄道事業会計の企業債が一般会計へ移管されたため、元利償還金が増加したことなどによるものである。
今後も引き続き市債残高のマネジメントに取り組む。

※1 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

		年度	H28末	H29末	H30末	R01末	R02末
※2 減債基金 積立状況等	減債基金残高（注）		467,875	612,799	650,352	623,985	576,027
	減債基金積立相当額		444,376	462,062	459,322	441,810	425,206

分析欄

本市ルールに則り、確実に積み立てており、積立不足はない。
なお、平成29年度末における減債基金残高が大きく増加している要因は、交通事業の民営化に伴い企業債の償還財源を積み立てたことによるものである。

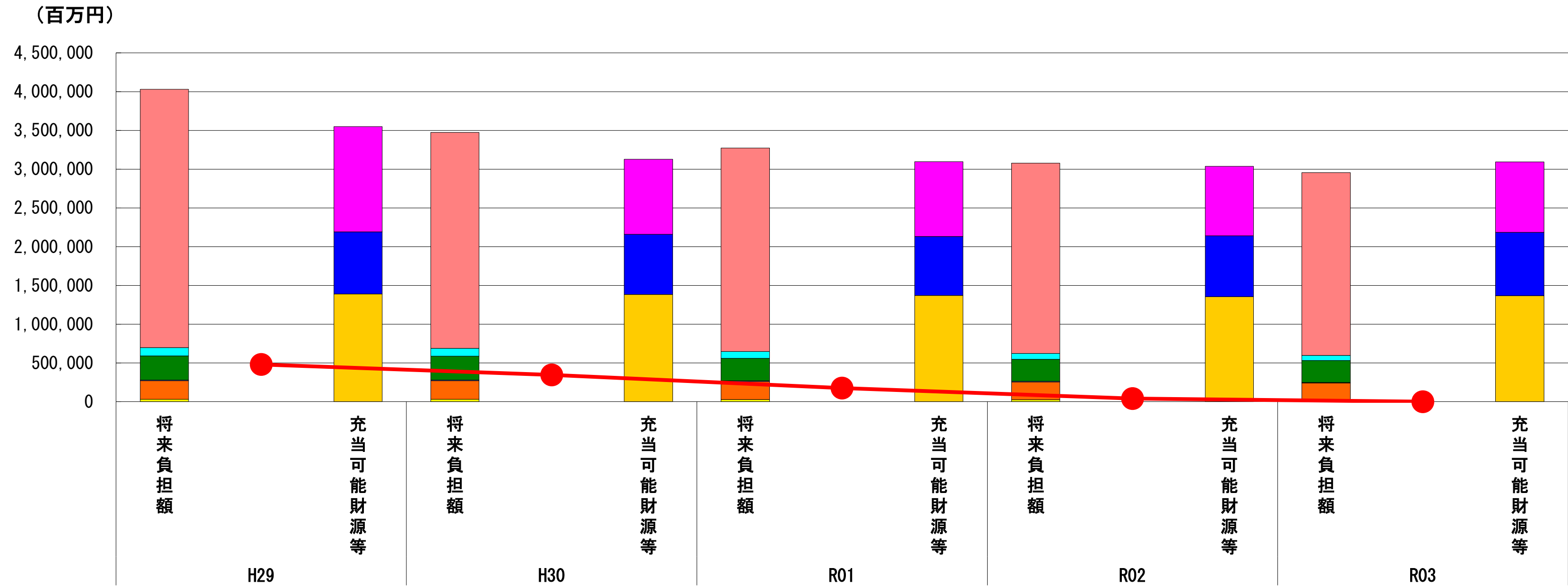
（注）減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

大阪府大阪市



(百万円)

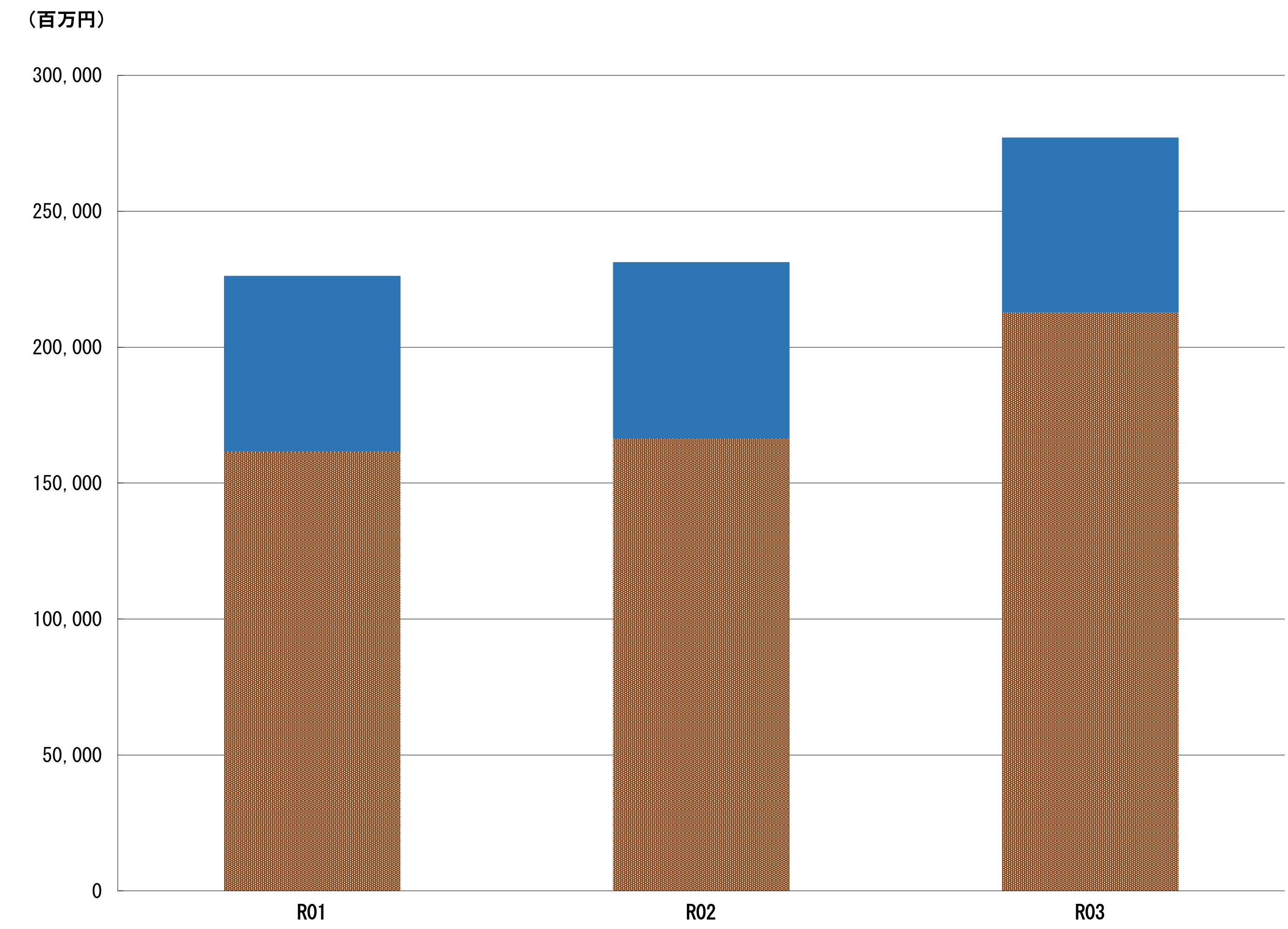
分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		3,330,875	2,785,361	2,625,777	2,454,823	2,360,740
	債務負担行為に基づく支出予定額		109,016	99,424	88,277	77,408	66,268
	公営企業債等繰入見込額		308,633	308,783	289,885	282,245	280,491
	組合等負担等見込額		9,344	8,849	8,091	8,515	7,959
	退職手当負担見込額		238,982	239,730	234,245	229,242	216,730
	設立法人等の負債額等負担見込額		31,652	29,793	27,323	25,578	23,832
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		—	—	—	—	—
	連結実質赤字額		—	—	—	—	—
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		—	—	—	—	—
	充当可能基金		1,357,768	967,903	966,191	897,658	908,767
	充当可能特定歳入		802,848	775,725	761,513	786,137	819,578
	基準財政需要額算入見込額		1,388,561	1,383,105	1,370,027	1,353,105	1,365,738
(A)－(B)	将来負担比率の分子		479,324	345,207	175,868	40,910	▲ 138,063

分析欄

地方債の発行抑制による地方債残高の減少などにより、毎年度着実に減少している。
令和3年度は充当可能財源等が将来負担額を上回り、マイナスとなったことで、比率なしとなっている。
今後も引き続き市債残高のマネジメントに取り組む。

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分		年度		
		R01	R02	R03
	財政調整基金	161,606	166,382	212,731
	減債基金	-	-	-
	その他特定目的基金	64,677	64,905	64,328
	教育振興基金	22,633	22,649	22,554
	交通政策基金	19,390	19,393	19,394
	都市整備事業基金	8,260	8,960	8,525
	土地区画整理事業基金	2,567	2,462	2,267
	地域活性化事業基金	1,692	1,536	1,520
基金残高合計		226,282	231,287	277,058

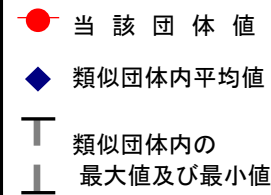
令和3年度	大阪府大阪市
基金全体 (増減理由) 令和3年度末の基金残高は、2,771億円となっており、前年度から458億円の増となっている。 これは、財政調整基金で463億円の増となったことなどによるものである。 (今後の方針) 財政調整基金については、経済事情の著しい変動等により財源が著しく不足する場合や、新型コロナウイルス感染症対策関連経費・物価高騰対応経費や、災害発生への対応など、財政上の備えとして引き続き適切に管理していく。なお、その他特目基金の教育振興基金においては、高度経済成長期に建設した学校校舎の老朽改築等の対策費が多額に見込まれるなど、計画的な残高管理が必要と考えている。	
財政調整基金 (増減理由) 財政運営の透明性や財政規律を一層確保する観点から、年度間の財源調整状況をより明確化するため、平成24年度に基金を設置しており、令和3年度末の基金残高は、2,127億円となっている。 令和3年度においては、令和2年度決算剰余金（130億円）や、年度中の収支改善見込額（312億円）等を積み立てたことなどにより、残高が463億円増加した。 (今後の方針) (仮称)区画整理記念会館整備事業への充当（取崩）などを予定している。 そのほか、経済事情の著しい変動等により財源が著しく不足する場合や、新型コロナウイルス感染症対策関連経費・物価高騰対応経費や、災害発生への対応など、財政上の備えとして引き続き適切に管理していく。	
減債基金 (増減理由) — (今後の方針) —	
その他特定目的基金 (基金の使途) 教育振興基金：学校教育及び社会教育の振興を図る事業の資金に充てる。 交通政策基金：本市における交通政策の推進を図る資金に充てる。 都市整備事業基金：本市における都市施設の整備を目的とする事業を促進する経費に充てる。 土地区画整理事業基金：土地区画整理事業の各施行地区における事業の施工の費用、土地区画整理法第102条第1項の規定による仮清算金の交付に要する費用、法第110条第1項の規定による清算金の交付に要する費用及び、清算金の交付のために起こした本市公債の償還の財源に充てる。 地域活性化事業基金：モーターボート競走に係る勝舟投票券の場外発売場の所在地に属する区における地域の活性化を目的とする事業の推進を図る資金に充てる。 (増減理由) 都市整備事業基金：公園事業などに充てるため4億円を取り崩した結果、4億円の減となっている。 土地区画整理事業基金：土地区画整理事業に充てるため2億円を取り崩した結果、2億円の減となっている。 (今後の方針) 教育振興基金については、高度経済成長期に建設した学校校舎の老朽改築等の対策費が多額に見込まれるなど、計画的な残高管理が必要と考えている。	

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

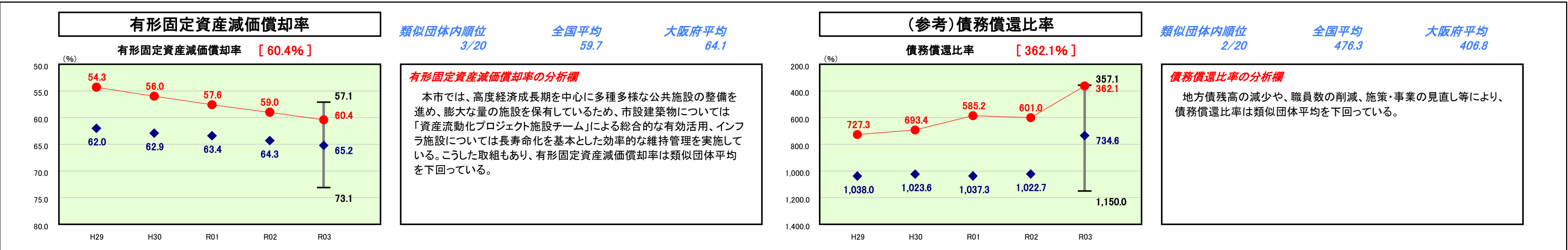
令和3年度

大阪府大阪市

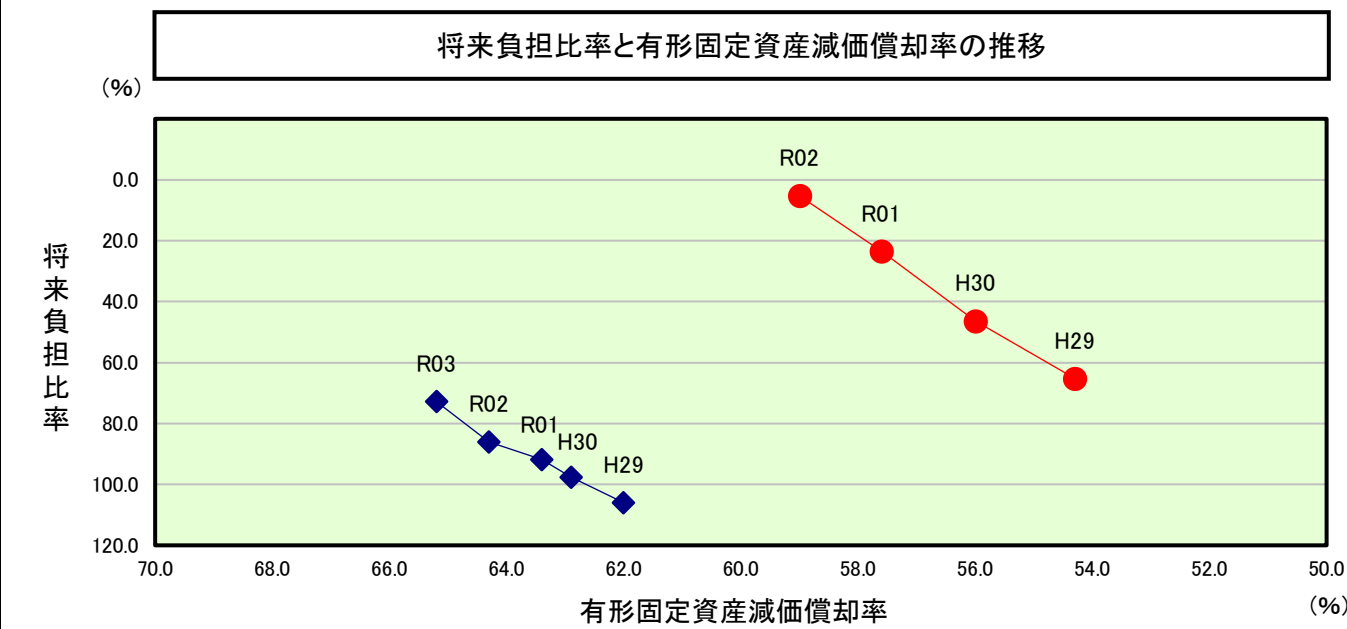
人	2,732,197	人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	2,593,449	人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	225.33	km ²	実質公債費比率	1.8	%
歳入総額	2,003,680,509	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	1,962,155,183	千円	市町村類型	H29 政令市	H30 政令市
実質収支	30,796,464	千円	(年度毎)	R02 政令市	R03 政令市
標準財政規模	899,578,624	千円			
地方債現在高	1,702,596,158	千円			



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



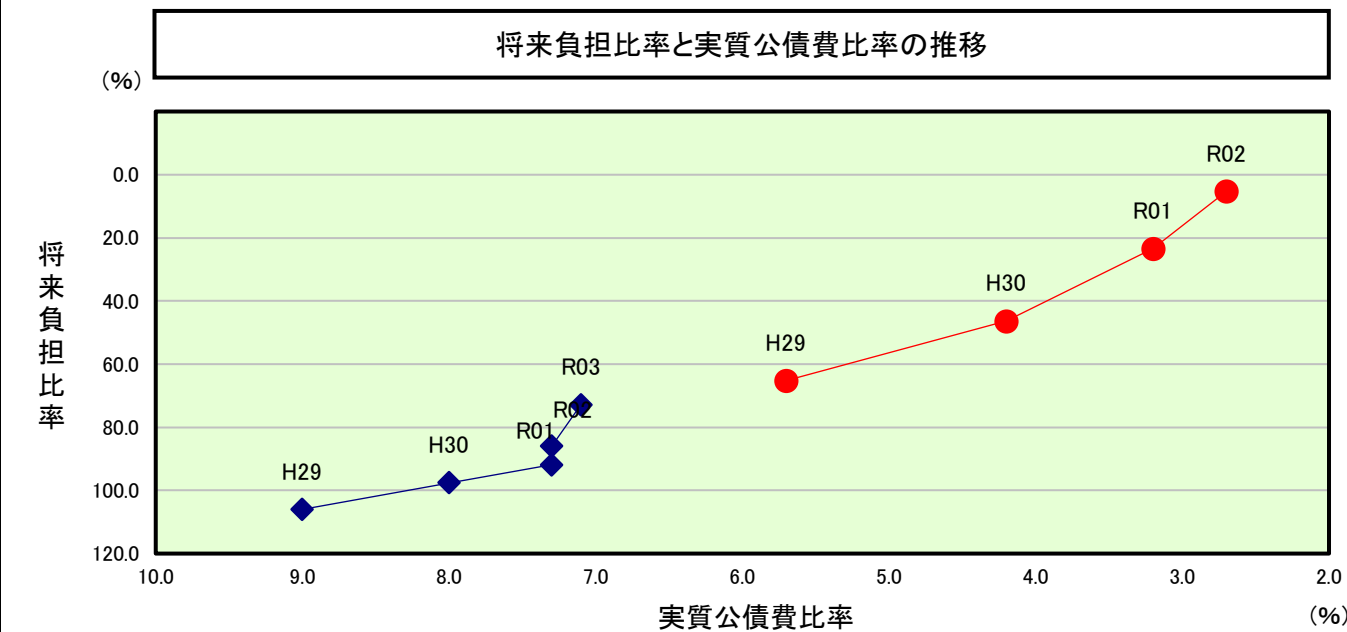
将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



分析欄
令和3年度については、将来負担比率は充当可能財源等が将来負担額を上回り、比率なしとなっている。
また、本市では、高度経済成長期を中心に多種多様な公共施設の整備を進め、膨大な量の施設を保有しているため、市設建築物については「資産流動化プロジェクト施設チーム」による総合的な有効活用、インフラ施設については長寿命化を基本とした効率的な維持管理を実施している。こうした取組もあり、有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回っている。

(参考)		H29	H30	R01	R02	R03
当該団体値	将来負担比率	65.2	46.4	23.5	5.3	-
	有形固定資産減価償却率	54.3	56.0	57.6	59.0	60.4
類似団体内平均値	将来負担比率	106.0	97.6	91.9	86.0	72.8
	有形固定資産減価償却率	62.0	62.9	63.4	64.3	65.2

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄
令和3年度については、将来負担比率は充当可能財源等が将来負担額を上回り、比率なしとなっており、実質公債費比率は地方債残高の減少や金利の低下に伴う利子の減などにより毎年度着実に改善しており、引き続き類似団体平均を下回っている。

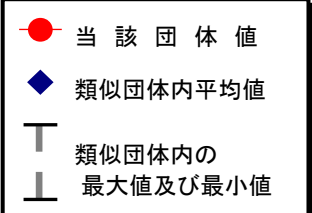
(参考)		H29	H30	R01	R02	R03
当該団体値	将来負担比率	65.2	46.4	23.5	5.3	-
	実質公債費比率	5.7	4.2	3.2	2.7	1.8
類似団体内平均値	将来負担比率	106.0	97.6	91.9	86.0	72.8
	実質公債費比率	9.0	8.0	7.3	7.3	7.1

(13)ー1市町村施設類型別ストック情報分析表①

令和3年度

大阪府大阪市

人	口	2,732,197	人(R4.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%
うち	日本	2,593,449	人(R4.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率
面	積	225.33	k㎡	実	質	公	債	費	比	率	1.8
歳	入	総	額	2,003,680,509	千円	得	来	負	担	比	率
歳	出	総	額	1,962,155,183	千円	市	町	村	類	型	H29
実	質	収	支	30,796,464	千円	(	年	度	毎	)	R02
標	準	財	政	規	模						R03
地	方	債	現	在	高						R01
											政
											令
											市



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析欄

本市では、高度成長期を中心に多種多様な公共施設の整備を進め、膨大な量の施設を保有しているため、市設建築物については「資産流動化プロジェクト施設チーム」による総合的な有効活用、インフラ施設については長寿命化を基本とした効率的な維持管理を実施している。こうした取組もあり、有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回っている。

その中でも、公営住宅については、「大阪市営住宅ストック総合活用計画」(当初策定:平成13年11月)に基づき、事業費・事業量の平準化を図りながら、公営住宅法上の耐用年限を超過しないよう計画的に建替事業を進めていることから、有形固定資産減価償却率が低くなっているものと考えられる。一方で、港湾施設については、老朽化が進み、供用年数が耐用年数を超える施設が約3割を占めていることから有形固定資産減価償却率が高くなっているが、「大阪港インフラ長寿命化計画」(平成29年7月策定)に基づき、効率的かつ効果的な維持管理を推進する。

今後も市設建築物およびインフラ施設については、「大阪市公共施設マネジメント基本方針」(当初策定:平成27年12月)に沿って、規模の最適化、予防保全による長寿命化、多様なコスト縮減手法の導入に取り組む。

(13)ー2市町村施設類型別ストック情報分析表②

令和3年度

大阪府大阪市

人	口	2,732,197	人(R4.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%	
うち	日	2,593,449	人(R4.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率	
面	積	225.33	k㎡	実	質	公	債	費	比	率	1.8	%
歳	入	2,003,680,509	千円	得	来	負	担	比	率	-	%	
歳	出	1,962,155,183	千円	市	町	村	類	型	H29	政	令	市
実	質	30,796,464	千円	(	年	度	毎	)	R02	政	令	市
標	準	899,578,624	千円						R03	政	令	市
地	方	1,702,596,158	千円									

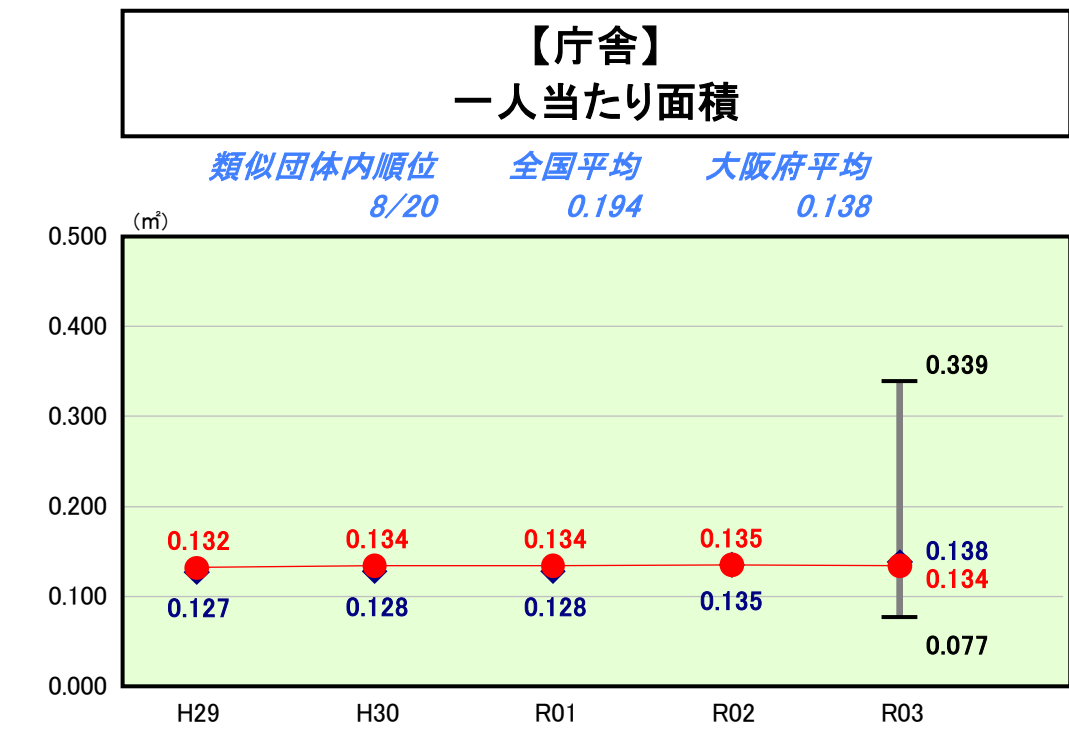
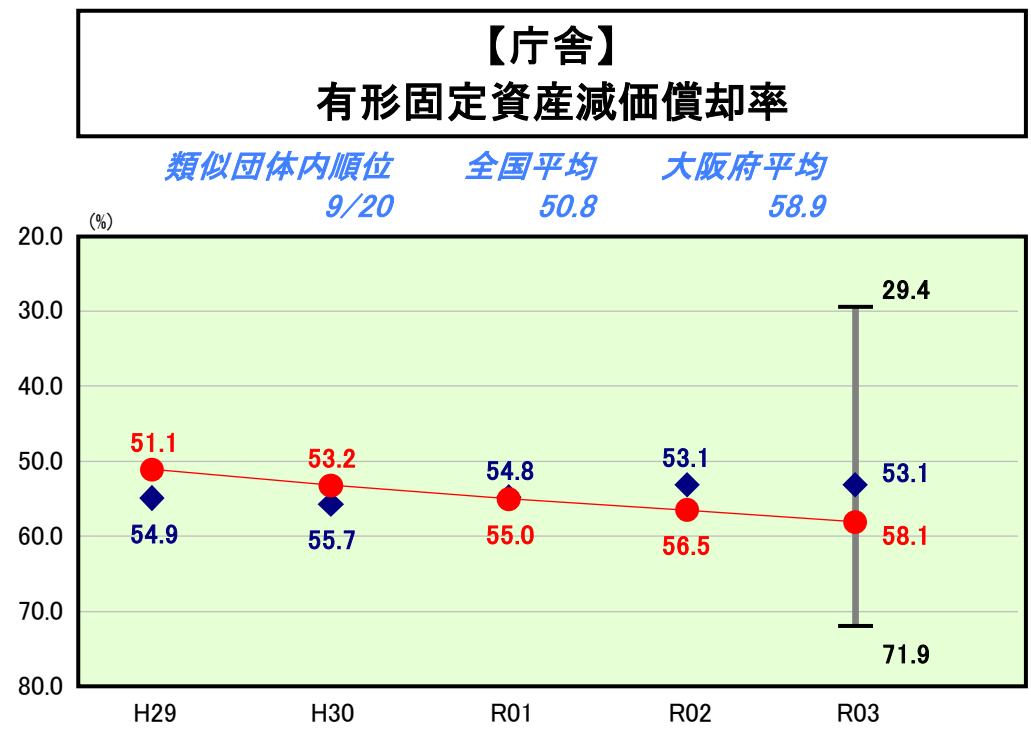
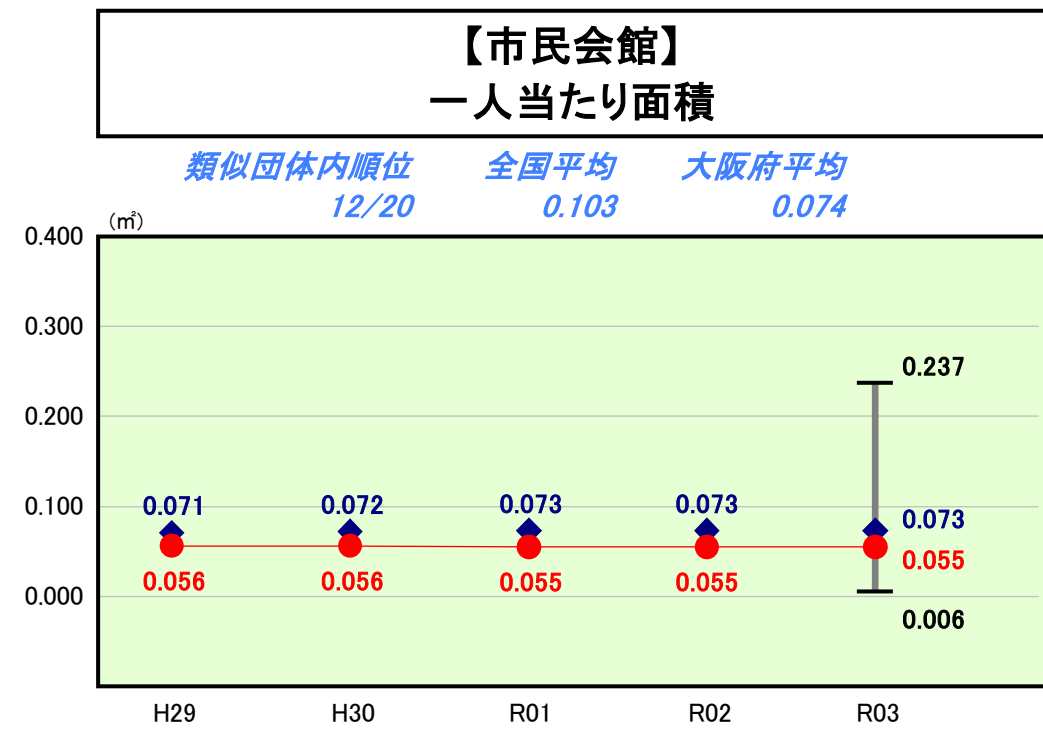
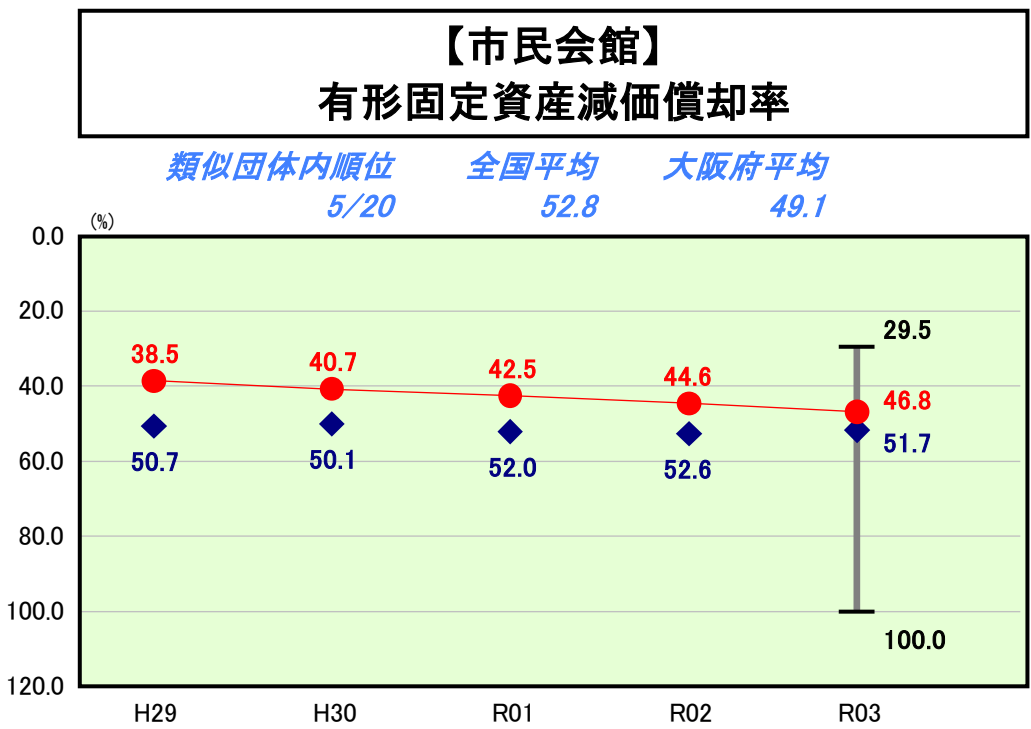
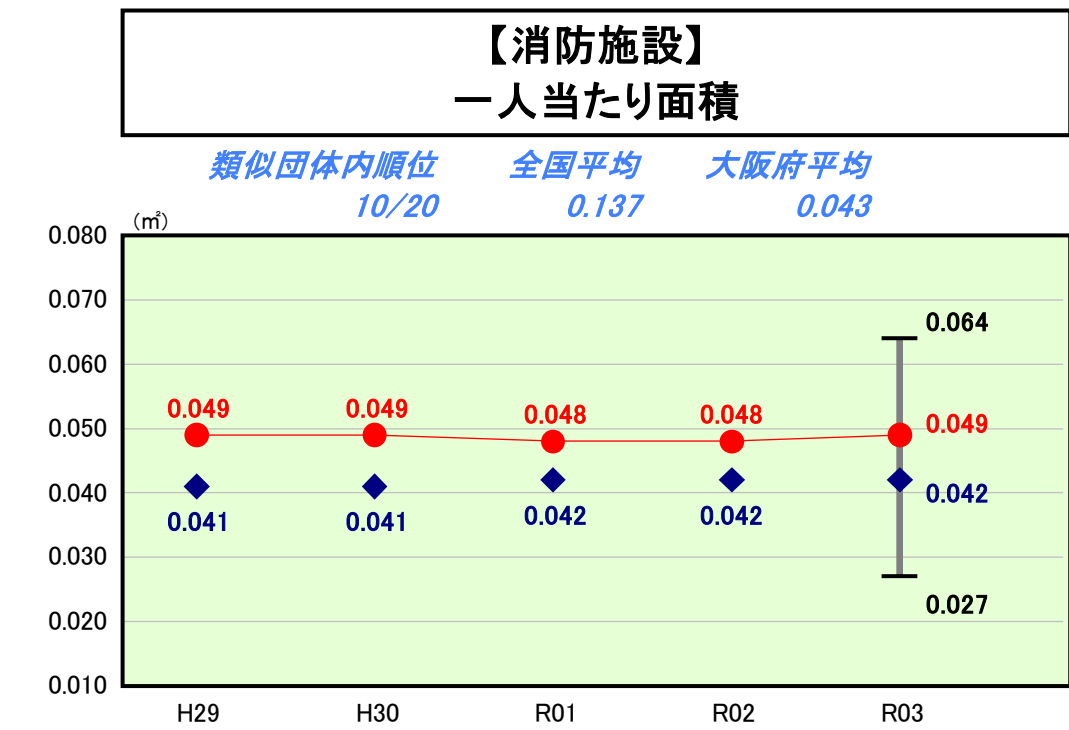
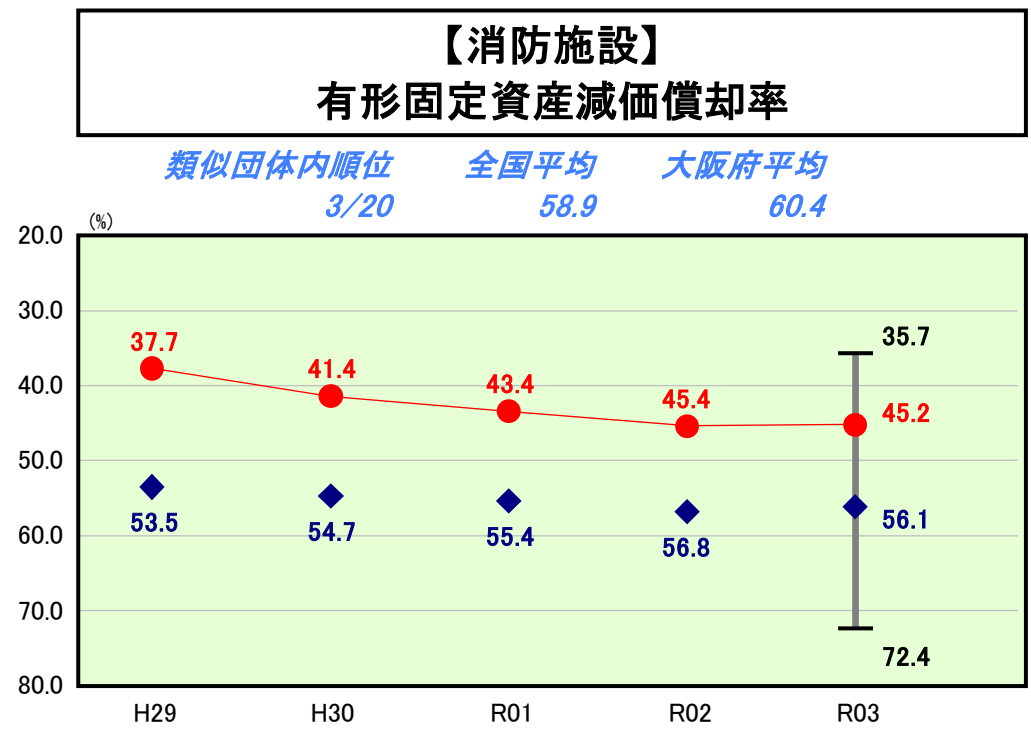
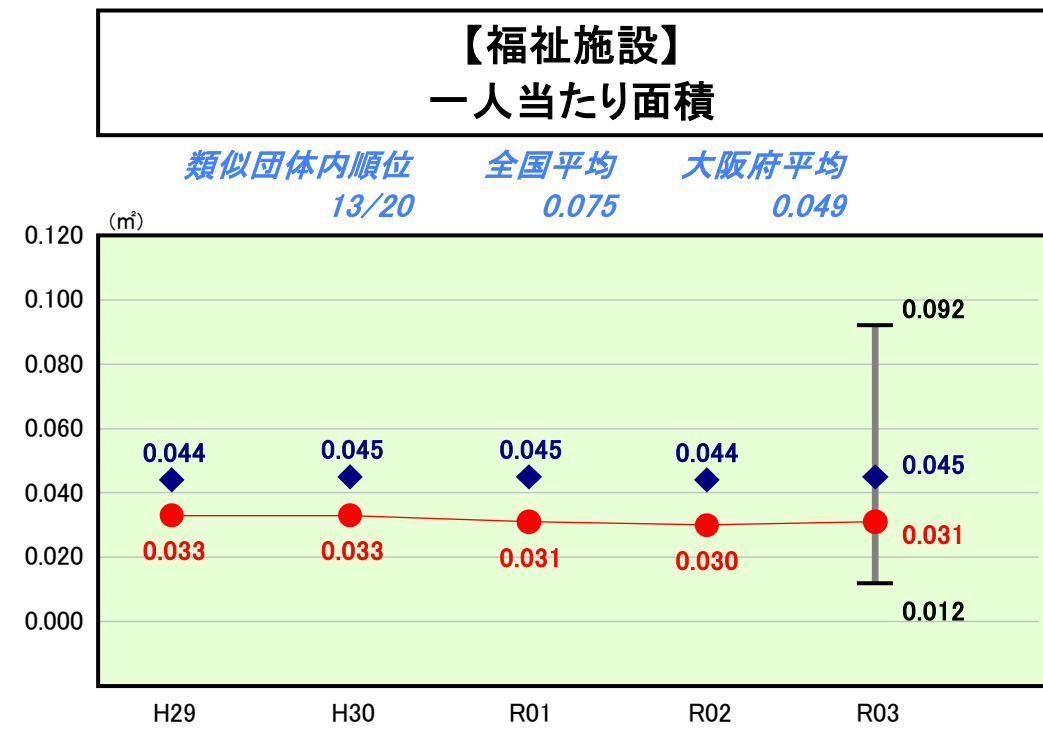
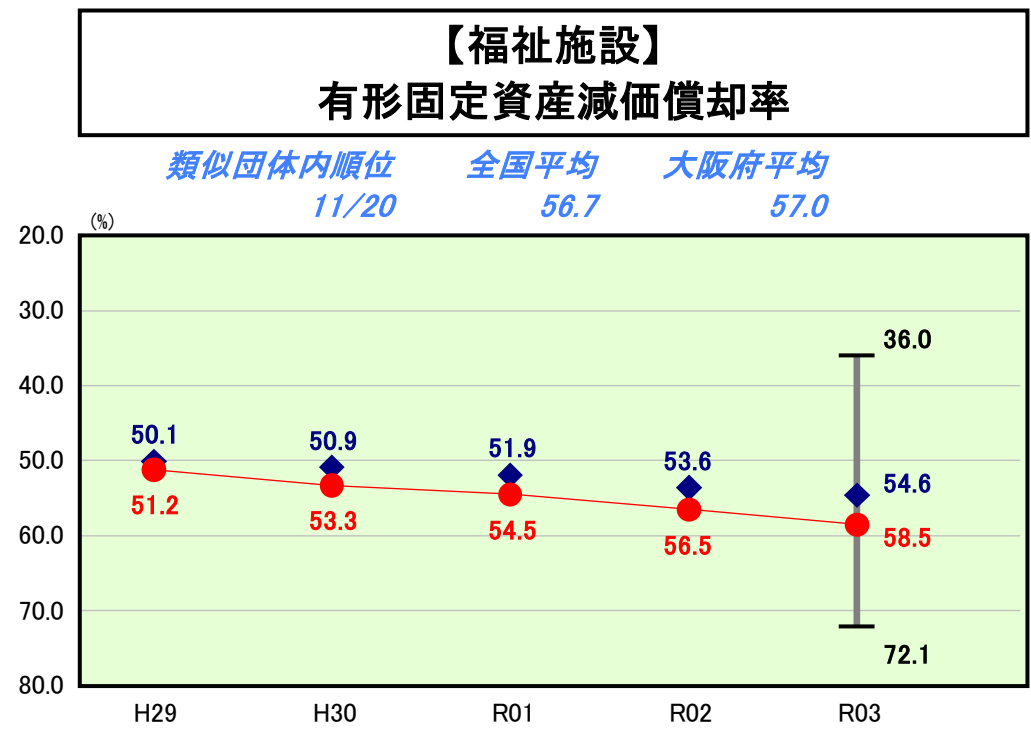
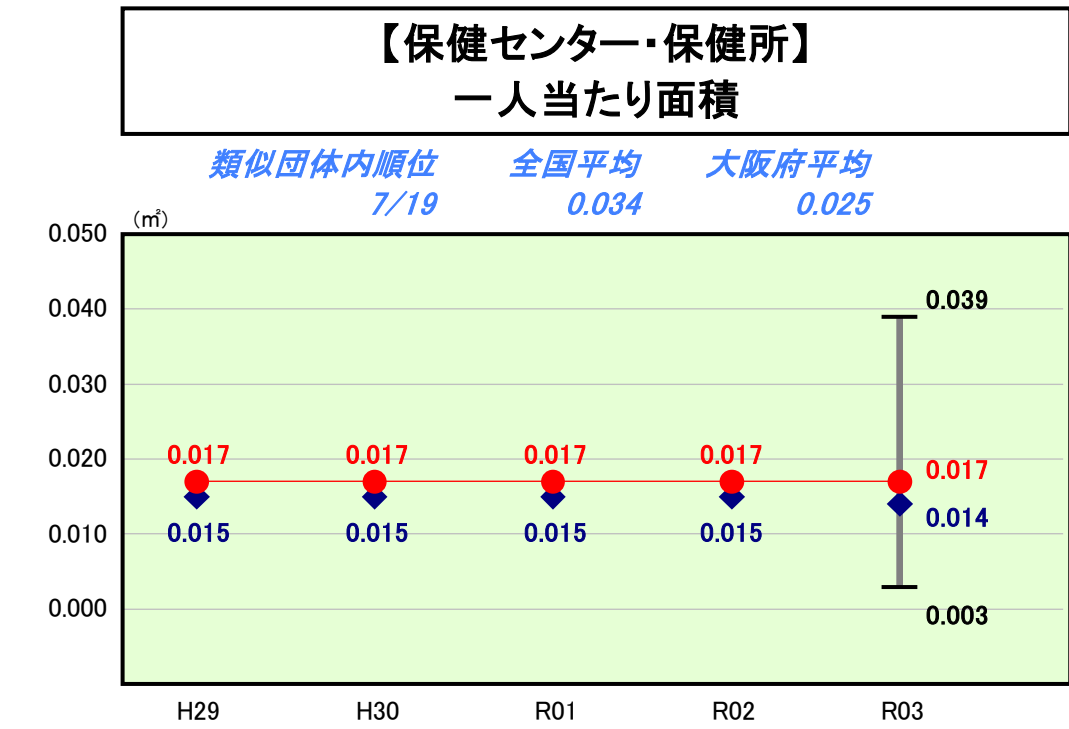
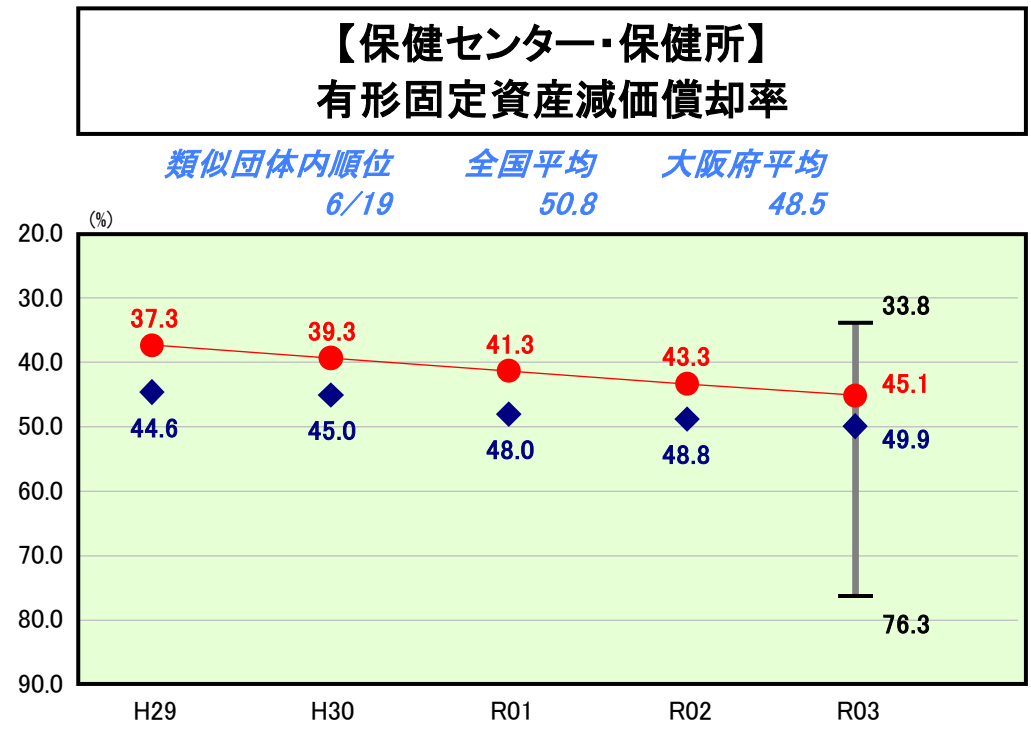
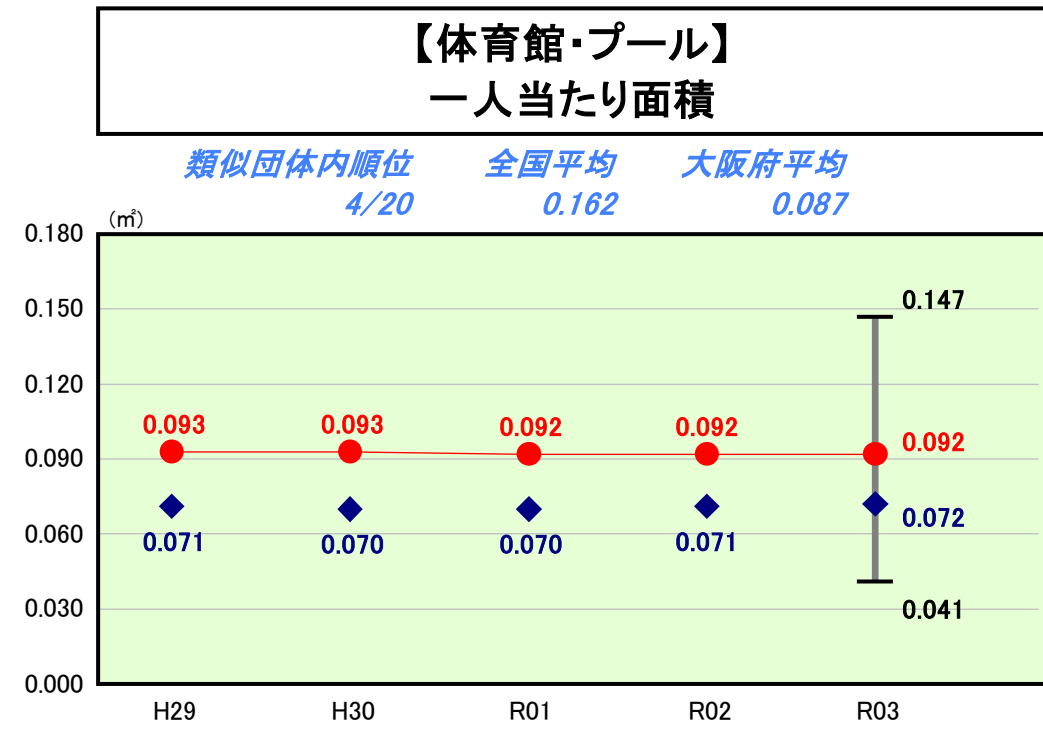
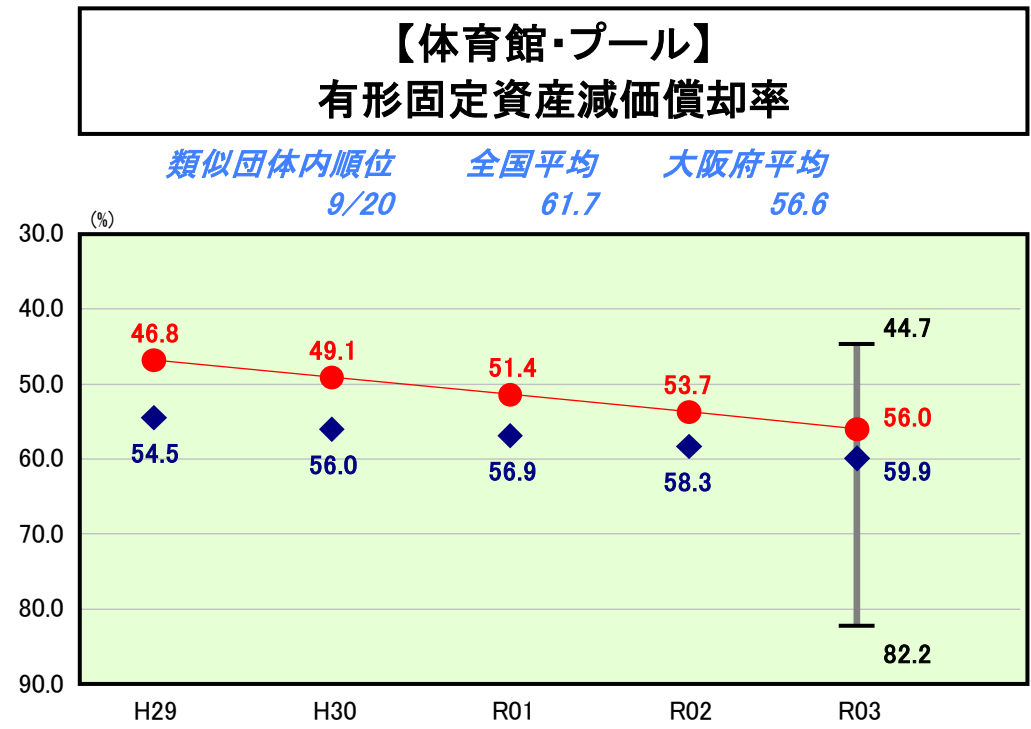
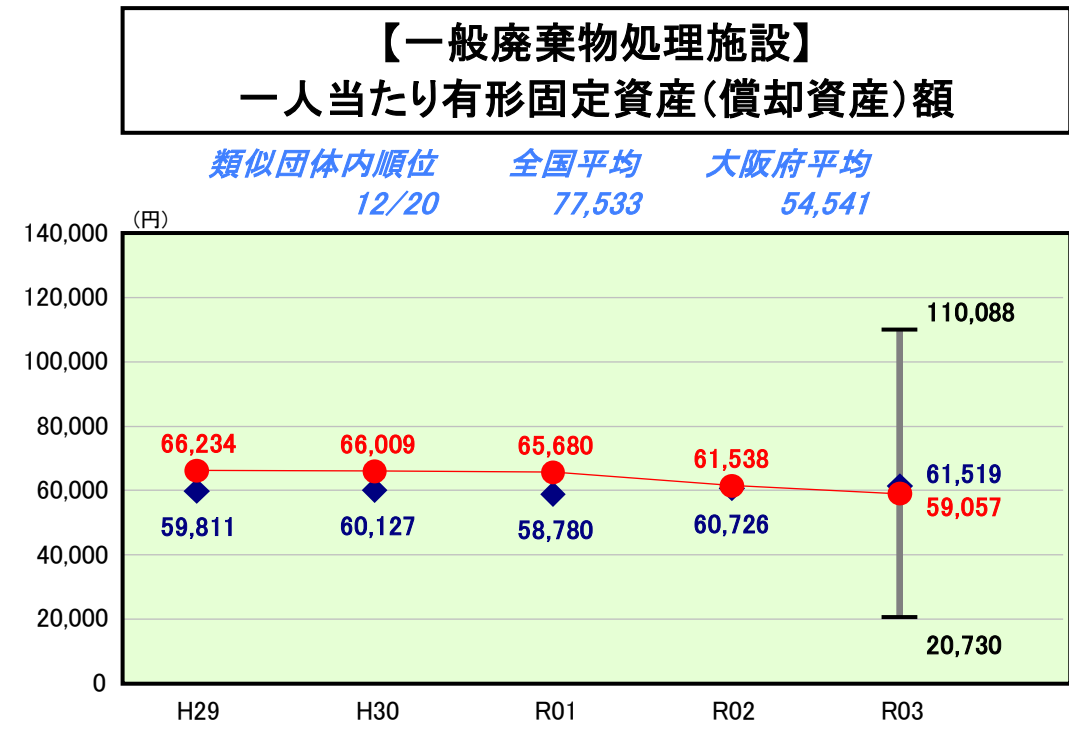
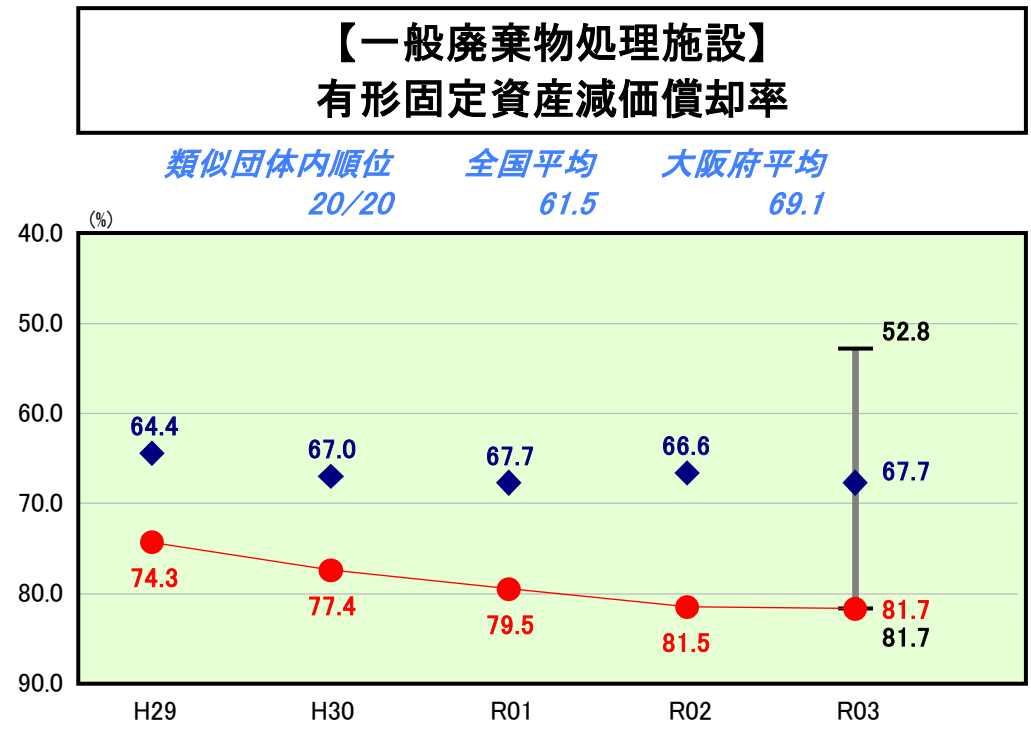
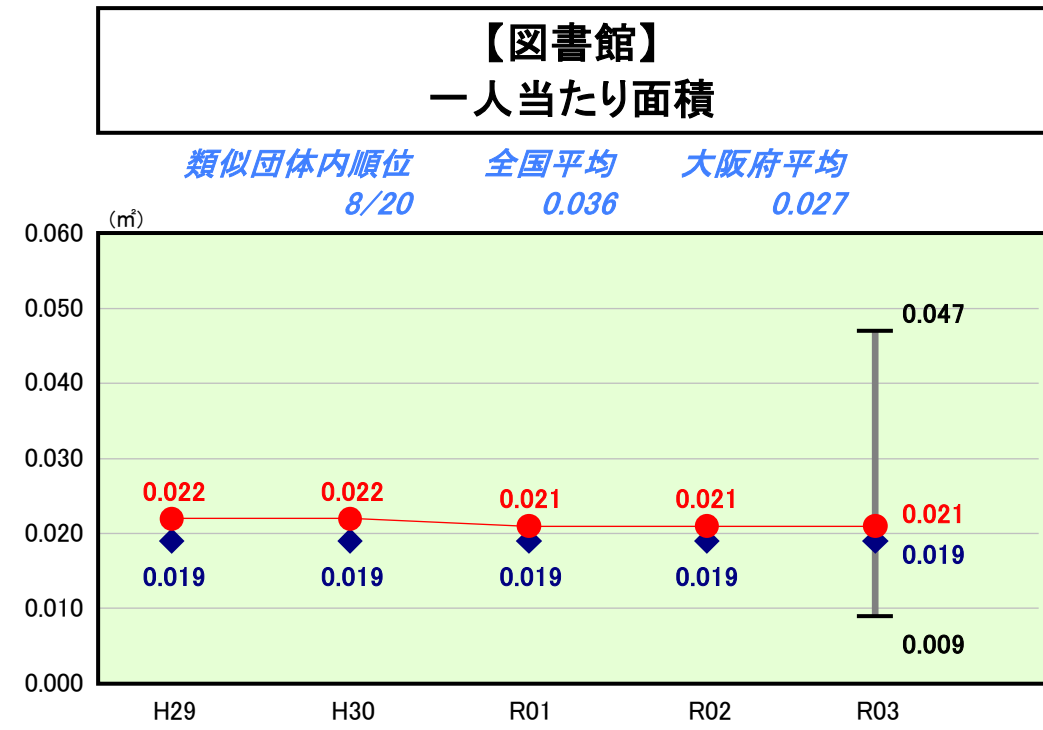
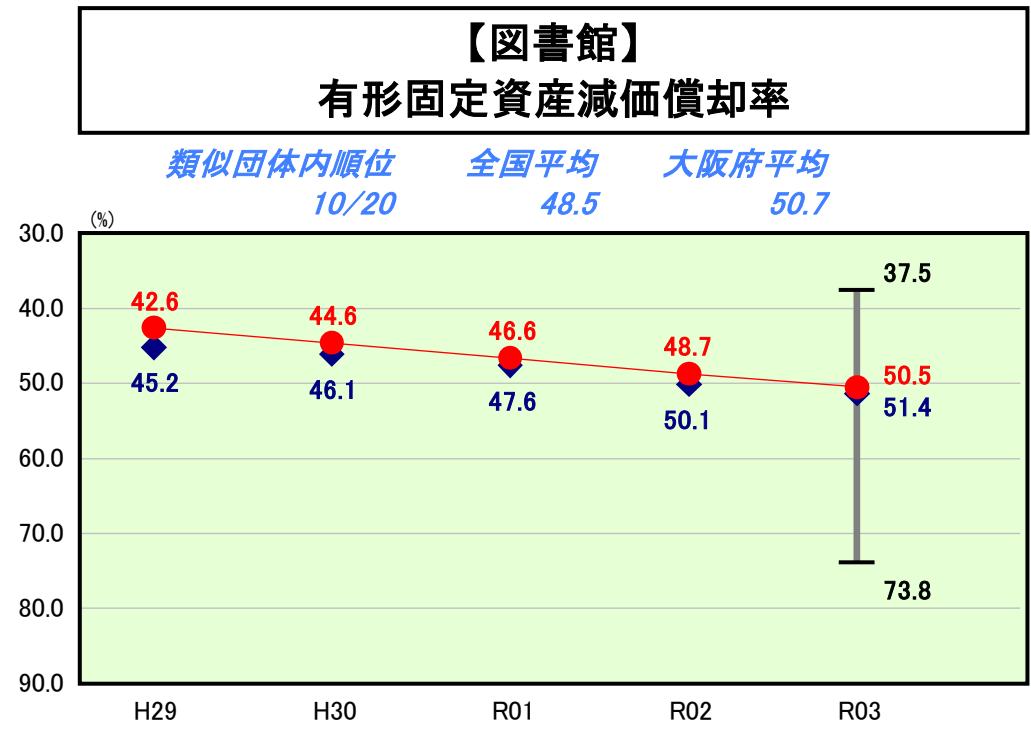


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析欄

本市では、高度成長期を中心に多種多様な公共施設の整備を進め、膨大な量の施設を保有しているため、市設建築物については「資産流動化プロジェクト施設チーム」による総合的な有効活用、インフラ施設については長寿命化を基本とした効率的な維持管理を実施している。こうした取組もあり、有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回っている。

なお、一般廃棄物処理施設については、老朽化が進み、供用年数が耐用年数を超える施設が約2割を占めており、有形固定資産減価償却率が高くなっているものと考えられるが、「ごみ焼却工場の整備・配置計画」(平成24年4月策定)に基づき老朽化したごみ焼却工場を順次更新していく。

今後も市設建築物およびインフラ施設については、「大阪市公共施設マネジメント基本方針」(当初策定:平成27年12月)に沿って、規模の最適化、予防保全による長寿命化、多様なコスト縮減手法の導入に取り組む。